

令和4年度事業報告書

社会福祉法人 八起会

- 法人本部
(経営委員会)
- 石部ケアハウス
- 石部デイサービスセンター
- 八起会居宅介護支援相談所
- 介護老人保健施設 石部ケアセンター
(デイケア併設)
- 八起会ホームヘルプステーション
- 介護老人福祉施設 もみじ
- もみじデイサービスセンター
- もみじケアプランセンター
- 特別養護老人ホーム あぼし
- デイサービスセンターにこにこ
- 特別養護老人ホーム みやのもり
- みやのもりデイサービスセンター
- 八起会みやのもりリハビリステーション
- デイサービスセンターこんぜの郷
- こんぜデイサービスセンター
- 八起会栗東居宅介護支援事業所
- グループホームみなくち
- デイサービスセンターあさひがおか

令和4年度事業報告書

社会福祉法人 八起会

法人本部

(令和4年度 総括)

令和4年度は法人内で新型コロナウイルス感染が拡大し、利用者への対応、感染症への対策の他、職員のやりくりなど、非常に苦労した一年であり、入念な感染症対策への労力と人手不足の二重苦で、職員の疲弊状態も続いた。さらには令和4年の春頃から、物価高騰による収益環境がいつそう厳しくなり、その影響は現在も続いている。そのような状況下、第五次中期経営計画（令和3～5年度）中盤の計画に沿って、業務に取り組んだが、やはり事業運営は大変厳しいものとなった。一方、国では介護現場のICT化や介護職の待遇改善など、さまざまな取り組みを推進している。ICTを導入した介護事業所に支援事業を行っており、要件を満たせば、ICT導入にかかる費用を一部都道府県が補助してくれる制度がある。さらに、臨時報酬改定で新たに「介護職員等ベースアップ等支援加算」が設けられた。定着率を高めるためには、これらを有効に活用することが重要である。令和5年はいよいよ令和6年医療・介護同時報酬改定の議論が本格化することとなり、介護業界にとって最も大切な1年間となる。また、コロナ禍の状況についても、インフルエンザと同等の5類相当への引き下げになることで、大きな状況変化が予測され、3年の長きにわたったコロナ禍もいよいよ収束に向けた出口戦略が描かれることになるであろう。大改革が予測される令和6年改定に向けて、今後の動向をしっかりと確認し、同時改定・大改革を乗り切らなければならない。

令和4年度の経営状況を見ると、事業収益面において、デイサービス等の通所介護事業所が新型コロナウイルスの影響による利用控えに加え、新規利用の登録者数が回復につながらず、前年度から引き続き低迷したままとなってしまった。また、新型コロナウイルスの第7波の影響が7月後半から10月前半まで続き、こんぜデイサービスセンターとデイサービスセンターこんぜの郷を始めとして、ほぼ全ての事業所において休業等の影響が発生することとなった。これら2点が大きな要因となり、前述の今年度から始まった「介護職員等ベースアップ等支援加算」や「処遇改善支援補助金」、その他の単発的な補助金を除くと当初の予定より減額となった。費用面については、人件費として賞与を年間で3.2ヶ月に減額したものの、令和4年10月からの社会保険適用拡大に伴う法定福利費の約1,200千円の増や「介護職員等ベースアップ等支援加算」及び「処遇改善支援補助金」を原資とした処遇改善手当の新設による約15,700千円の増、また、営繕職員の世代交代に伴う引き継ぎのため常勤職員が重複したことによる常勤職員給与の増により、トータルで前期比約24,900千円の増となった。経費も約9,200千円増加した。要因としては、前年と比較し修繕が少なく済んだことにより修繕費が約5,100千円減となったことやその他物価上昇による細かな増減はあったものの水道光熱費の増が著しく、使用量はほぼ変わらないものの約20,900千円増加したことが大きな要因となった。結果、収益の低下している中で想定以上の物価高騰・エネルギー高騰

が重なり大幅な赤字となった。

人事面においては、令和4年度スタート時に新卒者10名を新たに迎えることができた。コロナ禍における新卒採用活動として3度目となる令和5年卒採用において、採用活動で目立ったのは、早期化と売り手優位の加速だ。早期化について言えば、企業と学生の接触時期やプロセスの進み方が全体的に前倒しになってきている。売り手優位は、そもそも、新卒採用において10年くらい前から続いている。背景には少子高齢化による若年労働者不足という大きな流れがあり、コロナの流行がなければ間違いなく続いていたであろう。令和5年卒の採用市場でその状況が戻った感じである。もう一つ、令和5年卒採用でのポイントは、インターンシップの位置づけがさらに高まったことだ。企業は採用活動のために学生と随時接触していく。かつて、その最初の機会は、就職セミナー・合同説明会といったものであったが、近年はインターンシップに大きくシフトしている。学生の間では、「希望する企業に就職するためにはインターンシップへの参加が不可欠」という認識が高まっていることがうかがえる。そのため、研修型、職場体験型、イベント企画型かつ、Web、対面、Webと対面のハイブリットの選べるプランでインターンシップを実施した。参加学生の立ち居振る舞い、プログラムへの取り組み姿勢、成果などへの評価を担当職員が学生に伝える。最近の学生は、インターンシップであれ何であれ、企業と接触した際に、「こうすればより良くなる」といったようなフィードバックを受けると、そのアドバイスをくれた企業や担当者に好印象を持ち、就活における気づきや自分の弱みを改善するきっかけを与えてくれた会社に対して、学生は評価を高める。インターンシップで接触の時期が早まることによって、内定出しも早まりつつあるが、そのために学生の就活期間が長くなり、内定辞退者が増加している。学生は、内定先企業を見極めて最終的に就職先を決めるわけであるが、複数の内定を持ちながら、少しでも志望順位の高い企業にアプローチし、就職活動を続ける学生もいる。結果的に、企業側から見れば、内定を出しても辞退される割合が高まっているのも確かである。調査によれば、学生が内定先企業に期待していることの1位は「内定者同士で連絡を取りたい」。懇親会の開催を希望する声も多く、選考途中で学生同士が顔を合わせる機会が減ったこともあって、内定者同士や企業との交流に対する期待値が高いようである。内定企業との交流については、約7割の学生が「対面」を希望しており、「オンライン」は3割程度にとどまるようである。内定後は直接に接触したいと考える学生が多いようだ。以上のことから、内定を出した学生に辞退されることを防ぐため、コロナ禍で中止していた法人や仕事内容が自分に向いているのかどうかを見極めるための職場体験の実施、内定者同士の懇親会の開催、若手先輩職員との懇親会、採用担当者と内定者が個人面談を適時に行うなど、内定者フォローにも力を入れた。また、どの職場でも誇りとやりがいを感じていきいきと活躍してくれている職員によって支えられているはずである。介護の仕事をするのが「かっこいい」「面白い」と思われるような情報発信をしていくことも必要である。現在、SNSを含めてWeb媒体での情報発信はほとんどコストをかけずに行うことが可能であるため、インスタグラムも始めた。さらに、内定者のご家族へ当法人の施設案内と施設内動画をご覧いただけるQRコードとともに内定の理由を手紙にしたためて送ることとした。介護はかつて3Kなどとマ

スコミに報じられ、一般的に労働環境としてあまりよくないイメージを持たれている業界でもあり、内定者が親を説得できないという課題もあった。その悪印象を払拭するため、親へのアプローチにも取り組んだ。介護業界への就職を希望する学生の応募母集団をつくることに苦労している状況は以前と変わっていない。とにかく、学生と接触する機会をつくるのが大切なので、今後もナビサイトへのプレエントリー促進やイベント開催だけではなく、内定者や若手職員を巻き込んで、インターンシップやリファラル採用などのあらゆる母集団形成方法を活用していく。また、就活の早期化がありながら、学生の中には、コロナ禍で適切な情報を得られずに出遅れる層も存在する。そうした学生に対して、「当法人は通年採用で、まだまだ採用活動を続けています」などとアピールするのも有効的だと考えている。ただし、こうしたやり方が効果を発揮するには在籍職員の満足度の高さが必須である。若手職員が「うちの法人には入らない方がいいよ」などと学生に陰で言ってしまうと、採用担当者の努力も水の泡になる。そのためには、法人内の職場環境を整え、優秀な人材を育てていくことが欠かせない。今の学生たちは、長引くコロナ禍によって、安定志向が強くなっているが、それと同時に、ひとつの会社で定年まで働くという意識は薄れてきている。さまざまな思考や価値観を持つ学生がいるという理解のうえ、自法人らしい採用活動を工夫していきたい。

外国人労働者の受け入れについては、新型コロナウイルスのパンデミックが宣言された以降、EPA（経済連携協定による介護福祉士候補者）の現地合同説明会が中止になったが、令和4年度もインドネシア人1名が令和4年12月、フィリピン人4名が令和5年1月に無事入職することができた。また、令和5年度については、新型コロナウイルスの影響により令和3年度候補生の入国が遅れ、3年度と4年度の候補生が集中して入職したため、インドネシアとフィリピンは据え置きとし、ベトナムのみの申し込みとした。しかし、EPA人気の高まりを受け、特に競争が激化しているベトナム人の獲得は難しく、残念ながらマッチングは0人であった。現在、介護福祉士国家試験の合格者が1名、不合格となり帰国せざるを得なくなった者が2名となり、EPA介護福祉士1名と介護福祉士候補生が15名在籍している。法人としては長く勤めてもらうのが本望なので、そのためにも受験面と仕事面・生活面を含めた手厚いサポートが大切になってくる。外国人採用については、これまで大きなトラブルもなく、日本人職員の成長機会にもなっているので、今後もEPAを中心に継続的に受け入れていく方針であるが、日本人の採用状況を鑑みながら、技能実習生や特定技能生の導入も引き続き検討している。ただ、記録的な円安進行で、外国人労働者にとって日本の魅力が薄れていることが今後大きな壁になるかもしれない。

一方、中途採用については、利用率の低下と新卒とEPAの採用が順調なことから人手不足感が緩和傾向にあったため、求人を出し続けてはいるものの、前年度に引き続き、積極的な募集を控えた。また、ハローワークからの紹介が多かったブラジル人やペルー人については、めっきり応募が少なくなった。これは、製造業での求人が復調傾向に転じたためと考えている。在日ブラジル人の多くは日系ブラジル人で、その大半が製造業現場で就労している。ブラジル人らは一般的に、出稼ぎ労働者も含めて最も重要視するのは賃金である。ブラジル人

やペルー人職員向けに、日本語学習やマナーの定期的な勉強会を法人内で開催するなどのサポートもしているが、離職率が高く、平均勤続期間も短い。介護が好きで職場環境も法人の方が良いが、製造業は賃金が高いと口々に言う。

雇用動向については、新型コロナウイルス感染が拡大する前の水準まで上昇している。一方、介護業界の人手不足は深刻であり、令和7年には34万人の介護人材が不足するという試算がある。人手不足に陥る要因の一つとして、離職率の高さが挙げられる。実際のところ一般的に最も多い離職の原因は「人間関係」。新人を採用できたとしても、それは穴の開いたバケツで水を汲んでいるようなものである。まずは、離職率を健全な水準で維持することが必要である。そのためには「働きやすさ」だけではなく、「働きがい」を感じられる体制を整えていかなければならない。

また、予てよりの懸案であった運転手の年齢制限を設けた。全員に周知するための場をもち、意見や要望を聞くことができた。近年、高齢者の運転による事故が多発している。年間20万人もの人が運転免許証返納を行っているものの、コンビニや通行人に突っ込むなど、高齢者ドライバーによる事故は絶えない。介護事業所においても他人ごとではなく、人手不足により多くの事業所が高齢者ドライバーの採用を余儀なく行っている。当法人においても高齢化が進んでおり、令和2年には相手方の過失が100%ではあったものの、送迎中の事故により利用者が亡くなっておられるので、利用者の命を預かっている業務であることを鑑みた結果である。今後はさらに組織体制を明確にすることが課題である。

常勤職員の異動については、年度途中の退職者は20名（定年以降退職3名）、新卒採用者は10名、中途採用者は10名、非常勤から常勤への登用は2名となり、年度当初の職員数213名に対し、年度末職員数は、215名となっている。年度末における非常勤職員を含めた総職員数は、350名と昨年度末比12名減となった。

研修・教育プログラムの充実にも継続的に取り組み、組織の固定化を防ぐためにも、研修の方法や内容など、年に応じて変化させているが、令和4年度においても新型コロナウイルスにより進行に影響があったため、引き続きリモートで行うべきことと集合で行うべきことをしっかりと見極めて効果の高いやり方で実施した。引き続き、法人内での立場や役職によって異なる仕事への姿勢や考え方などの自覚を促し、職務を遂行する上で必要な能力を身につけるといった目的で外部講師と業務提携を行い、研修体系を構築。階層ごとのスキルの現状と求められる能力のギャップを埋めるために必要なことは何かを把握し、中長期的な育成方針で行っている。恒例の法人顧問弁護士による研修は今年度も中止。新しい取り組みは以下の4つの研修である。まず、1つ目に人事考課についての研修。これまで考課者を対象に実施してきたが、職員の半数以上を占める被考課者との認識が合っていないことは、効果は期待の半分にしかならない可能性があるため、被考課者（一般職全員）を対象に実施した。人事考課制度の意義を知ることから始まり、誤解されやすい「目標管理」の本当の意義を知った上で、自分の目標を客観的に見つめるよい機会としてもらう。研修を実施するにあたりビデオを作成し、新入職員を迎えた際にも活用できる内容に仕上

げることができた。2 つ目にマナーリーダー養成研修における活動の一環として、法人職員の接遇マナー向上に対する意識づけを目的に、接遇マナー動画(テーマ:挨拶)を作成し、マナー向上の意識付けを形に残した。事業所ごとの垣根を超え、法人全体の接遇マナー力を高め、法人全体のレベルの一定化を図る。3 つ目に平成 27 年度より「子育てパパ・ママのキャリアアップ研修」と題して、情報交換会(茶話会)を定期的に行っていたが、令和 4 年度から内容を一新し、「子育て支援講座」として開催した。「子育て支援」とは、親の立場から「育てる」のではなく、子どもの「育つ力」を見守り、育み、支援するという観点に立った子育て。TA を通して、心の成り立ちや心の動きを理解し、自己への認識を深めることで、子どもやパートナーとのかかわり方を見直し、より良いかかわり方を考えてもらう。子育てと仕事の両立をサポートし、子育て時の離職を防ぐ。4 つ目に管理職研修の再開。事業推進力を上げるのは幹部教育が必須。法人の中心人物として相応しい人材の育成と高度なリーダーシップを育てる。また、企業人権問題に対しての法人内研修については、令和 4 年度は近年の全国中学生人権作文コンテスト入賞作品から(1)外国人問題、(2)障害者スポーツ、(3)障害者理解を題材とする 3 作品をアニメ映像化したビデオ(YouTube)を活用することにより、人権尊重意識の普及高揚を図ることを目的に実施した。新型コロナウイルスの影響で、一か所に集まって行う集合研修を実施することが難しい状況であるので、事業所内での視聴とした。

さらに、労務管理などのワークライフバランスに配慮した環境整備に努めた。介護業界で長く働くためにも大切となるのが、自身のワークライフバランスをどう保つのかということである。仕事とプライベートを両立させ、適度にストレスを発散することが、長く健康で働き続けるために重要なことであるので、勤務時間を調整したり、休暇の制度を上手く活用して、しっかりとストレス管理をすることが大切である。

新型コロナウイルスの影響があったものの、月平均所定外労働時間は 3.5 時間、平均年休取得率においては、100%を超え、時間外および有給休暇の徹底した管理を続けた結果であると確信している。

そして、これまでの積み重ねが実を結び、悲願であった滋賀県女性活躍推進企業認証制度の三ツ星とえるぼし認証 3 段階を獲得することができた。行政の企業認定を取得することは、いわば「国からのお墨付きをもらう」ようなもの。難易度は高いが、企業認定を取得できれば企業イメージの向上による優秀な人材の確保や入札案件への参加など多くのメリットがある。今後も新たな認証取得に向けて挑戦していく所存である。

経営に関しては、第五次中期経営計画の「人材の確保・育成」、「安定経営に向けての事業展開」、「安定経営に向けての経営マネジメント」の課題と方向性に基づいて、主要施策の項目を掲げ、効率的、効果的に遂行できるよう、これまで同様、各所管の責任において実行していく項目と、委員会等にゆだねる項目、PT(プロジェクトチーム)方式で進める項目など、区分けして取り組んでいる。特に経営対策委員会を中心に具体的推進策(工程表)に基づき、分析、検証を進めており、令和 4 年度も引き続き法人財務分析および他法人比較を行うなど、「安定経営に向けての経営マネジメント」、「安定経営に向けての事業展開」、「人

材確保・育成」を柱として取り組んだ。また、前年度から始めた人件費率表を改良し、人件費を基に逆算した目標利用率の表示や、前年同期間の人件費率・利用率、前月の利用率の 3 項目を比較し悪化している項目が 2 項目以上あった場合には黄色表示赤色表示という形で段階的に表示し、原因・対策の共有を図り、早期の対策ができるチェック体制の構築を行った。さらに前年に引き続き予算作成等説明会を行い管理職等の収益管理のスキルアップにつなげ、令和 5 年 10 月から施行されるインボイス制度についても知識を深めた。インボイス制度については、システムに対応等の詳細が決定次第、令和 5 年度に実務面での説明会を実施する予定である。また、赤字が継続している石部ケアセンター、低迷する通所介護事業所について、WAM NET のデータを基に全国の老健・通所介護事業所の赤字事業所黒字事業所との指標比較を行い当法人事業所ごとの弱みを見つけ各課題の改善検討の一助とした。そして、事業継続のための大規模修繕について、約 10 年間で約 14 億円を予定しており、令和 4 年度は石部ケアセンターとあぼしの LP ガスバルク更新工事に着手し、令和 5 年度には石部ケアセンターの給湯システム、石部ケアハウスの LP ガスバルク更新工事、あぼしの高圧受電設備更新工事、グループホームみなくちの非常用発電機設置工事を予定している。

その他については、残念ながら令和 4 年度も例年開催している祭りは中止とした。自主防犯組織「八起会安心パトロール隊(青パト)」は継続しており、徘徊不明高齢者の早期発見保護活動に重きを置き、有効な活動を推進し、児童・生徒に対する痴漢予防の活動にも努めている。さらにグループホームみなくちを福祉避難所として指定を受けるための申請を行った。今後も地域のみなさまにとって「なくてはならない企業」を目指した活動を続けていきたい。また、「介護職員処遇改善加算」、「介護職員等特定処遇改善加算」、「介護職員等ベースアップ等支援加算」すべて無事申請することができ、法令に基づくアルコールチェック体制の整備も行った。

令和 4 年度から厚生労働省では、小売業、介護施設等を中心に増加する転倒や腰痛による労働災害を予防する取り組みを推進するため、介護施設の多店舗展開企業等を対象者として、自主的な安全衛生管理のスタートアップ支援を実施することとなり、東近江労働基準監督署から、その「+SaFe 育成支援」への参加依頼があった。法人と経営課題とそれに密着に係る労働災害防止対策等について認識を共有し、必要な対策を検討する。法人の実情を踏まえつつ優先順位を付けた支援計画を作成し、支援を受ける。安全で健康に働くことのできる職場環境を調えることができ、職員の勤労意欲が向上し、生産性、定着率が高まるとともに、有能な人材の獲得にもつながればと願う。

障がい者雇用については、法人で雇用すべき人数 6 名に対して、令和 5 年 3 月末時点で 9 名おり、法定雇用率(2.3%)を上回る雇用を維持することができている。法定雇用率も段階的に引き上げられ、令和 8 年中を目処に 2.7%へ引き上げる方針が発表されているが、雇用率だけに着目するのではなく、もっとたくさんの障がいのある方たちを採用していきたい。

法人にとっての大きな課題は、経営管理者の年齢が総じて高く、これら世代交代の時期が間近だということである。次代を担う経営管理者の育成が大きなカギを握る。マネ

ジメント経験を積む場を意図的に設けて、チャレンジできるよう計画的に進めたい。そして、新型コロナウイルスによる社会変化を柔軟に捉え、より一層地域を支え、貢献できる事業展開を目指す。

経営委員会 総括

前年度に引き続き、経営委員会において以下の取り組みを行った。

▶ 経営対策委員会

本年度第 5 次中期経営計画の中間年度として、①人材確保・育成、②安定経営に向けての事業展開、③安定経営に向けての経営マネジメントを 3 本柱として、優先的な課題に対して活動を行った。

《①人材確保・育成について》

- ・運転手および営繕業務の求人方法・業務内容の見直しを行い、マニュアルやオリエンテーション資料を作成。仕事にやりがいを感じながら、業務を続けられるように支援。
- ・介護職員がキャリアを積んでいくための具体的な内容を検討し、標準的なマニュアルを作成。キャリアアップするための目標や、スキルアップに必要な資格取得などを検討。

《②安定経営に向けての事業展開について》

- ・法人の事業所を連携させ、上位加算取得のための手段を提案し、現在実務者レベルで調整中。
- ・特色を生かした通所系事業所の運営(リハビリ特化、重度化特化、365 日営業)について提案。
- ・各事業所の加算取得一覧を作成。加算要件と人員配置を連動させ、加算の取りこぼしを防止。
- ・LIFE(科学的介護情報システム)運用についてのデータ送信手続きにおける法人内のルール決定と周知。
- ・法人独自のプロフェッショナルキャリア段位制度の評価基準の作成と介護プロレベルについて検討。

《③安定経営に向けての経営マネジメント》

- ・中期経営計画の PDCA サイクルを実践するため、人件費率や目標利用率、居宅の紹介率などを基に指標を定め、早期に立て直しを図れるのチェック体制の構築。
また、指標に対して未達であった事業所については、原因の分析や対策立案を実施し、半期毎に報告する体制の整備。
- ・令和 6 年度より法的義務化される感染症および災害に関連する BCP(業務継続計画)の法人統一様式の作成と各事業所への周知。

▶ 業績向上委員会

今年度も昨年にも引き続き、法人内の各部署間の連携と情報共有に重きをおき、居宅部門と通所部門、入居部門に委員会のメンバーを分け、それぞれの部門で相談員、ケアマネ

ジャーを中心に定期的に会議を開催し、利用率向上に向け、継続的に取り組みを行った。

《居宅部門》

外部事業所や地域のサロン、会議等に参加し、現状の把握や課題等の情報を収集し、当法人の事業所へ情報提供を行った。また、会議やサロンで法人の PR に努めた。

通所事業所との合同会議については、コロナ感染時期と重なり、開催が延期となったため、次年度早々に開催をしていく予定である。

次年度については、地域ケア会議等への参加を増やしていき、新規利用者の獲得に取り組んでいく。

《通所部門》

居宅からの情報をもとに、取り組めるサービスを検討、実施した。

各通所介護事業所の状況や体制を確認する中で、取得可能な加算や新たなサービスの取り組みを検討し、事業所に提案を行った。また今年度は、新規利用者獲得のため、法人内の通所介護事業の総合パンフレットを作成し、PR 活動を行い、利用率向上に努めた。

次年度については、今期作成した通所事業所の総合パンフレットの活用方法と WEB を活用したパンフレット作成に取り組んでいく。

《入居部門》

待機者の整理と次期入所者の調整等を中心に連携・情報交換を行い、空床期間の削減に取り組んだ。

次年度も引き続き、各部門での連携を図りながら取り組みを進め、業績向上に繋げていきたい。また、外部関係機関等への働きかけの幅を広げていき業績向上につなげていきたいと考える。

▶ サービス向上委員会

- ・新型コロナウイルスの影響により祭りなどのイベントが中止になる中、感染リスクを低減しながら地域に貢献できる活動として、屋外での地域清掃を実施した。コロナ禍の状況を鑑み、委員会メンバーの他各施設の新人職員と管理職が参加。地域清掃をきっかけに新入職員と管理職の交流もできた。
- ・マナーリーダー養成研修との連携により、マナー向上の意識付けを目的に、接遇自己チェックの実施、挨拶を中心とした接遇マナー動画の作成。
- ・法人本部との連携により、法人 HP のブログを継続して実施。月 2 回の定期的な更新を行った。また、令和 4 年 12 月より新規利用者の獲得、利用者家族に対する満足度向上、求職者に対する職場アピールを目的にインスタグラムを開設。
- ・安全衛生委員会より安全衛生方針の表明を受け 4S 活動を推進し、安全で働きやすい職場環境を整えることで介護サービスの質の向上と労働災害防止に取り組んだ。感染予防のため事業者間の往来を避け、事業所内での巡視を実施。次年度も引き続き、感染状況を鑑みながら地域貢献に努め、地域の方々とのコミュニケーションを通じ

て当法人の事業活動に対する理解を深めていただくことを目的に、地域行事への参加など自治体や地域の団体と連携して地域の活性化を図る活動を行う。

➤ 研修委員会

今年度は、研修内容の見直しと研修整理を行い、研修のスリム化を図ってきた。また、コロナ禍での感染予防対策で、視聴研修が多くなった状況は前年度と同様となった。研修内容の見直し等を行う中で、研修時間の短縮を図ることができた反面、日数は大きく変更しなかったことで、遠方の事業所職員には移動時間等の手間ができたことは来年に向けて改善していきたい。

新たに京都医療福祉専門学校から講師を招き、研修を実施することができ、介護の基礎を学ぶ貴重な時間となった。近年、介護学校卒業生の就職が少ないこと等の問題もあり、来年度も専門講師から直接学ぶ機会は大切にしていきたい。

来年度の取り組みに関しては、各種研修内容を整理しながら、人材育成の目標を共有していくことと、2年目の職員に介護に対する思いや介護を展開する考えを研修し、介護力のアップを図っていきたい。共に働く職員の喜びと利用者の喜びが自分の喜びに繋げられるような人材育成を目指し、地域の中から選ばれる法人となれるようにしていきたい。

理事会開催状況

令和 4年 5月 25日 (水) ※Web 会議システムにて実施

1. 令和3年度事業報告及び決算報告(案)について
2. 評議員会の開催について
3. 金融機関取引について

令和 4年 9月 26日 (月) ※Web 会議システムにて実施

1. 会計報告について
2. 金融機関取引について

令和 4年 11月 18日 (金) ※Web 会議システムにて実施

1. 副業による会社設立について

令和 4年 12月 22日 (木) ※Web 会議システムにて実施

1. 会計報告について
2. 金融機関取引について

令和 5年 1月 11日 (水) ※Web 会議システムにて実施

1. 石部ケアセンター給湯設備改修工事の入札業者の選定について
2. 金融機関取引について

令和 5年 2月 17日 (金) ※Web 会議システムにて実施

1. 施設長人事について
2. 石部ケアセンター給湯設備改修工事について

令和 5年 3月 28日 (火) ※Web 会議システムにて実施

1. 会計報告について
2. 未収金の徴収不能処理について
3. 令和4年度補正予算(案)について
4. 令和5年度事業計画及び予算(案)について
5. 令和4年度指導監査結果等の報告について
6. 金融機関取引について
7. 役員等賠償責任保険の契約について

評議員会開催状況

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面決議とし、令和 4年 6月 17日（金）までに同意書の返送を依頼した。

1. 令和 3年度事業報告及び決算報告(案)について

監事監査の実施状況

令和 4年 5月 25日（水）

山元監事・仁科監事により実施

石部ケアハウス
石部デイサービスセンター
八起会居宅介護支援相談所
(令和4年度 総括)

- ・要介護1 …24名
- ・要介護2 …4名
- ・要介護3 …1名
- ・要介護4 …0名
- ・要介護5 …0名

1. 総括

(1) 石部ケアハウス

令和4年度は、利用率98.5%(平均入居者49.25名)を目標としてスタートした。幸先よく4月1日、1名入所になり、満床の50名でスタートしたが、近年では最大である年間退居者11名が発生し、8名の新規入居者を獲得したものの、年間利用率95.58%と前年対比2.52%の減少となってしまった。

入居延べ人数は満床で18,250名(定員50名×365日)に対し、17,444名、令和3年度の17,931名と比べると487名減となった。

- ・入退居の状況は、入居者8名(令和4年度8名)、退居者11名(令和4年度7名)と例年に比べ入居・退居ともに多い状況であった。年間退居者11名の退居先は、老健6名・特養2名、死亡・入院・自宅各1名と、老健(石部ケアセンター5名)が一番多い状況であった。
- ・昨年度に引き続き、入居者の会である「ふるさと会」をもとに、入居者の自己選択、決定を尊重し、また、事故・苦情等に対して早急な対応と、サポートをすることができた。
- ・三雲養護学校の生徒との交流事業は、新型コロナウイルスの感染防止対策上、中止せざるを得ない事態が続いたが、年度末頃の落ち着いてきたころから、三雲養護学校石部高校分校の生徒が作ったパン販売は再開することができた。
- ・入居者によるボランティア活動として、石部デイサービスセンター利用者の見守りサポート、あぼしや石部ケアセンターのトイレで使用する感染防止用新聞紙のセット作業を行った。
- ・設備面では、水道漏水箇所が地中埋設配管だったため、地上配管を新設する工事や事務所の照明LED化を行った。入居者居室の水道栓・温水器の更新も3年目となり、生活環境改善に努めた。
- ・利用率ダウンに伴うサービス活動収益は、前年対比870千円減となったが、職員1名退職に伴い人件費が前年対比801千円減、修繕箇所の減少等で事務費が前年対比3,704千円減となったが、業務用電力電気代の値上げで前年対比1,959千円増となり、サービス活動増減差額は2,045千円増加に留まった。
- ・年度末現在

入居者内訳 男性13名、女性33名、計46名
 平均年齢 男性83.2歳、女性87.4歳、全体86.2歳
 男性(最年少71歳、最年長97歳) 女性(最年少77歳、最年長96歳)
 要介護・要支援状態区分該当者34名(前年度該当者38名)
 ・要支援1・2 …5名

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
4年度	86,900	26,301	37,588	16,981	6,030
3年度	87,770	27,102	40,233	16,450	3,985
2年度	82,720	24,676	35,106	14,988	7,950

(2) 石部デイサービスセンター

- ・令和4年度の日平均利用者数は20.3名となり、令和3年度21.9名より1.6名減となった。年間の利用者延べ人数においても令和4年度6,329名となり、令和3年度6,797名より468名(前年対比▲6.9%)減であった。利用者総数は、63名と令和3年度53名より10名増加したものの、新型コロナウイルスの感染や降雪による利用減などから一人当たりの利用率は低下した。
- ・居宅介護支援事業所の集中減算を回避するため、当法人居宅介護支援事業所からの新規利用者紹介が減少し、利用者は3件減少となったが、他の居宅介護支援事業所と密に連携をとり、7件増加させた。ただし、他の居宅介護支援事業所からの紹介者は、重度の方や負担の大きい利用者が多く、利用率アップまでは厳しかった。
- ・サービス活動収益は、年間延べ利用者が468名減少し、サービス活動収益1,658千円減少した。水道光熱費やガソリン代の値上げの影響で、物件費も360千円増加した。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
4年度	57,234	79,748	14,902	4,867	▲42,343
3年度	58,892	67,335	14,542	4,719	▲27,704
2年度	65,879	61,826	14,015	4,426	▲14,388

(3) 八起会居宅介護支援相談所

- ・令和4年度は、新規利用者の受け入れが51名(令和3年度56名)、死亡・入所等された方が60名(令和3年度49名)であった。
- ・年間延べ利用者数は2,575名で、令和3年度に比べ127名減。その内訳は要介護延べ人数が2,065名(令和3年度2,146名)、要支援は510名(令和3年度556名)と前年対比で要介

護者 81 名減、要支援者は 46 名減となり、比率は、要介護者 80.2% (令和 3 年度 79.4%)、要支援者 19.8% (同 20.6%) で要介護者の割合が増加している。また月平均では、要介護者 172.1 名 (令和 3 年度 178.8 名)、要支援者 42.5 名 (令和 3 年度 46.3 名) となった。

- ・介護支援専門員の一人当たりの月間利用者件数は 42.9 名 (令和 3 年度 45.0 名) であった。
- ・国から令和 5 年度末までに求められている BCP (事業継続計画) マニュアルの作成を行い、来年度にその研修と訓練を実施する計画・体制づくりを行った。
- ・地域貢献活動として石部中学校区内の生活支援コーディネーター第 2 層の方と意見交換の機会を設け、地域の社会資源の現状を把握、課題を分析しながら、今後、地域に必要な社会資源の提案や、地域の高齢者が住み慣れたまちで自立して生活していける仕組みづくりの検討を行った。
- ・湖南市コア会議に担当ケースを提出し、各関係機関の担当者と話し合うことで、利用者の権利擁護を図るとともに、地域で安心して生活ができるように連携を行った。
- ・職員の資質向上では、他法人の事業所と合同事例検討会を実施した。また、地域包括支援センターが実施する事例検討会にも積極的に事例を提出した。さらに甲賀・湖南ケアマネ協議会等の研修会の参加や介護支援専門員としてのスキルアップを目的とした議題や利用者に関する情報の共有の勉強会を週 1 回開催した。
- ・24 時間連絡体制により、独居世帯、高齢者世帯や介護力が不十分な世帯、また虐待、経済的困窮世帯などの困難な介護ケースも受け入れ、各関係機関との連携を密にして、地域の方々や行政に信頼される事業所としての役割を果たした。
- ・働き方改革として、7 日間の連続休暇 (年次有給休暇 5 日間 + 公休 2 日間) を職員全員取得するとともに、年間の有給休暇取得率、事業所全体で 92.2% (年間付与日対比) の実績を果たした。さらに業務効率化を図り、職員一人当たりの時間外勤務を月平均 3.71 時間とした。
- ・サービス活動収益は、年間延べ利用者数 127 名減から前年対比 1,191 千円減の 37,013 千円となった。さらに減価償却費増もあったが、職員の退職による人件費減や新型コロナウイルスの感染防止のかかり増し経費の縮小によって、サービス活動増減差額は前年対比 156 千円増となった。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
4 年度	37,013	22,229	2,073	838	11,901
3 年度	38,204	23,522	2,451	486	11,745
2 年度	34,371	22,580	2,076	341	9,374

2. 年間延べ利用者数 (デイサービス・居宅支援 上段:介護 下段:予防)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
ケアハウス	1,488	1,488	1,380	1,452	1,493	1,475	1,533	1,423	1,488	1,488	1,326	1,410	17,444
デイサービス	530	560	534	530	560	530	569	501	494	446	473	544	6,271
	5	4	5	5	4	5	4	4	5	4	4	9	59
居宅支援	180	178	182	179	181	176	177	174	168	157	157	156	2,065
	41	41	40	42	39	43	43	42	43	44	43	49	510

3. 職種別職員数 (令和 5 年 3 月 31 日現在)

形態	職種	施設長	事務長	相談員	栄養士	ワーカー	看護師	専門員	介護支援	宿直	営繕管理
石部ケアハウス		1		1	1	2					
石部デイサービス				2		8(4)	2(2)			2(2)	
居宅介護支援								5(1)			
計		1		3	1	10(4)	2(2)	5(1)		2(2)	

():非常勤職員数

4. デイサービス登録者数 (令和 5 年 3 月 31 日現在)

要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
1	2	1	2	3	4	5	
1	2	18	16	8	12	5	62

男性 22
女性 40

(男性 1 名別途保留中)

5. 年間行事等実施内容

別紙のとおり

令和4年度 行事等実施報告書（石部ケアハウス）

	行事					その他		
	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容
4月	3	映画鑑賞会	6	お花見弁当	15	お誕生日会	17	映画鑑賞会
5月	1	映画鑑賞会	8	母の日	13	お誕生日会	15	映画鑑賞会
	18	さつま芋の苗植え						
6月	5	映画鑑賞会	10	お誕生日会	19	映画鑑賞会	19	父の日
	23	手作りパン販売						
7月	7	手作りパン販売	7	七夕	8	お誕生日会	10	映画鑑賞会
8月	5	お誕生日会	21	ワクチン接種4回目				
9月	4	映画鑑賞会	16	お誕生日会	18	映画鑑賞会	19	敬老祝賀会
	29	手作りパン販売						
10月	2	映画鑑賞会	3	クッキー販売	7	お誕生日会	16	映画鑑賞会
	20	手作りパン販売	28	芋掘り	30	全館害虫駆除		
11月	1	焼いも	6	映画鑑賞会	7	クッキー販売	10	手作りパン販売
	11	お誕生日会	20	映画鑑賞会	21	インフル予防接種	25	消防訓練
12月	5	クッキー販売	8	手作りパン販売	9	お誕生日会	11	映画鑑賞会
	22	ゆず風呂	23	クリスマス会	25	映画鑑賞会		
1月	1	年賀祝賀会	1	記念撮影	2	書初め	6	お誕生日会
	8	映画鑑賞会	15	小正月（甘酒とぜんざい）	16	クッキー販売	19	手作りパン販売
	22	映画鑑賞会	23	ワクチン接種5回目				
2月	5	映画鑑賞会	9	手作りパン販売	13	クッキー販売	17	お誕生日会
	19	映画鑑賞会						
3月	2	手作りパン販売	3	桃の節句茶話会	5	映画鑑賞会	6	クッキー販売
	17	お誕生日会	19	映画鑑賞会	30	消防訓練		

・カラオケを楽しむ会（毎週 火曜日14:00～）

・生き生き体操（毎週 月、水、金 13:30～14:00）

・お針の会（第2、第4 日曜日10:30～）

・書に親しむ会（第1、第3 日曜日10:30～）

・喫茶（毎週水曜日 14:00～15:00）

※：ノロウイルス感染症の状況を考え、行事は中止・再開を繰り返しました。

※：さつま芋の苗植え、芋掘りは入居者のみで行いました。

令和4年度 行事等実施報告書（石部デイサービスセンター）

	行事					その他		
	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容
4月	13	手作りおやつ	15	ぎょうざパーティー	21	手作りおやつ	26	出前ランチ
5月	21	出前ランチ	23	ちらし寿司	27	ティーパーティー		
	10	手作りおやつ	16	手作りおやつ				
6月	9	手作りおやつ	11	ティーパーティー	21	ワンプレートランチ	22	手作りおやつ
7月	4	ティーパーティー	13	生姜焼き定食	15	手作りおやつ	19	手作りおやつ
8月	9	手作りおやつ	22	手作りおやつ	25	そうめん		
	30	お茶会						
9月	9	栗ご飯定食	19	敬老会	21	手作りおやつ	29	手作りおやつ
	27	ティーパーティー						
10月	6	ティーパーティー	14	手作りおやつ	18	手作りおやつ	24	天ぷら定食
11月	2	手作りおやつ	15	出前ランチ	18	出前ランチ	22	串カツ定食
	26	ティーパーティー						
12月	13	手作りおやつ	19	手作りおやつ	23	手作りおやつ	24	クリスマス会
	28	行事食						
1月	10	ティーパーティー	11	小正月	18	手作りおやつ	27	手作りおやつ
	26	おでん定食	30	出前ランチ				
2月	3	節分	13	うどん定食	11	手作りおやつ	18	行事食
	22	出前ランチ	23	手作りおやつ				
3月	3	ティーパーティー	6	イチゴ大福	11	イチゴ大福	21	行事食
	28	出前ランチ						

介護老人保健施設 石部ケアセンター

(入所・ショートステイ・デイケア)

(令和 4 年度 総括)

1. 総括

(1) 石部ケアセンター

令和 4 年度は、昨年度より継続していた報酬区分「加算型」として運営を開始した。

新型コロナウイルスの感染症が県内においても増加傾向となり、在宅復帰を見送るケースも増加した。当施設でも 8 月、12 月に新型コロナウイルスの感染が発生し、治療や防止対策に迫られた。感染症対策については、新型コロナウイルスの感染防止対策に対する経費が膨らんだが、対策の成果もあり感染を最小限に防ぐことができた。地域への講師派遣や交流においても自粛を余儀なくされ活動はできなかった。

業務面では、退所者は 127 名(令和 3 年度 68 名)となった。入所者は 119 名(令和 3 年度 74 名)を受け入れた結果、利用率は年間で 86.90%となり、令和 3 年度(89.57%)より 2.67%減少した。利用率は目標数値に達することができなかったが、居宅介護支援事業所への営業成果もあり、短期療養介護利用者の新規獲得においては成果がでた。

介護に関する事故等については、年間 227 件(令和 3 年 251 件)前年対比 -24 件となった。事故原因は様々な要素が絡むが、介護事故を防ぐ為には、職員の介護技術や事故に対する予見能力をアップさせる必要があり、今後も研修、啓発、指導していく。また、苦情申し出の件数は 0 件であった。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
4 年度	331,528	268,820	91,499	25,678	▲54,469
3 年度	335,429	267,402	89,122	24,769	▲45,864
2 年度	329,168	272,930	87,421	24,076	▲55,259

(2) 石部デイケア

令和 4 年度は、新規利用の獲得や利用回数増加の相談など、居宅介護支援事業所との連携強化だけでなく、法人内の他の事業所の利用者でリハビリが必要な方がいないかなど、他事業所との連携強化にも取り組んだ。その結果、上期は前年度を上回る結果となったが、令和 4 年 12 月に利用者および職員に多数の感染者が出てしまったため、下期は、前年度を下回る結果となった。

延べ人数は上期 3,526 名、内予防 647 名(令和 3 年度 3,415 名、内予防 620 名)、下期 3,109 名、内予防 648 名(令和 3 年度 3,358 名、内予防 692 名)であり、年間では 6,635 名、内予防 1,295 名(令和 3 年度 6,773 名、内予防 1,312 名)で前年度より 138 名減少した。

令和 5 年 3 月 31 日現在の登録利用者数は、要支援 25 名(令和 3 年度 21 名)、要介護 71 名

(令和 3 年度 75 名)、合計 96 名で、登録利用者数は、前年度と同じとなった。

業務面では、令和 3 年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症対策として、パーティションの設置、利用者全員にマスクの着用と手指消毒の徹底、乗車前、到着後、帰宅前の体温確認、リハビリ機器の消毒、定期的な換気、利用者同士の間隔を広くとるなど、感染対策を行った。

また、ADL(日常生活動作)や QOL(生活の質)に直結するように、日常生活動作関連の体操や DVD 等を使つての音楽に合わせた体操などを実施し、リハビリの効果が可視化できるように 3 カ月に 1 度体力測定も実施した。また、利用者の自主性を高めるために、前年度に取り組んだ脳トレなどのプリントや手指のリハビリ器具、足につける重りなどを利用者を取りやすいところに配置したことで、自らプリントやリハビリ機器を取りに行くなど、自主的にリハビリを行うことが定着してきた。

リハビリやレクリエーションなどすべてにおいて、3 密を避け、互い違いに座り、換気、手指消毒の徹底など、感染症対策を行った上で、心身機能の維持・向上に取り組んだ。

職員のスキル向上については、新型コロナウイルスの感染症により、会議の開催が不十分ではあったが、資料等の配布により、リハビリや医療、介護技術関連の勉強会を実施した。また、外部研修については、ZOOM 等を利用し参加することができた。

ヒヤリはつと件数 0 件(令和 3 年度 2 件)、事故件数 5 件(令和 3 年度 10 件)の合計 5 件発生した。苦情の申し出については、今年度 0 件(令和 3 年度 0 件)であった。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
4 年度	58,199	27,741	10,239	3,140	17,079
3 年度	58,950	24,778	9,152	3,074	21,946
2 年度	58,964	25,936	9,263	3,855	19,910

2. 利用者数(延べ人数)

石部ケアセンター

令和4年4月1日～令和5年3月31日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期	
入所延べ数	2,093	2,160	2,109	2,089	1,943	1,888	12,282	
入所者数	8	6	6	6	13	13	52	
退所者数	11	5	7	10	15	11	59	
ショート	29	39	11	12	1	6	98	
デイケア	589	629	626	557	564	561	3,526	
(内介護予防)	118	125	109	101	96	98	647	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期	合計
入所延べ数	1,948	1,779	1,920	1,832	1,804	2,005	11,288	23,570
入所者数	8	9	13	13	13	11	67	119
退所者数	12	11	12	13	10	10	68	127
ショート	29	49	35	91	72	78	354	452
デイケア	590	549	447	471	499	553	3,109	6,635
(内介護予防)	104	106	87	93	109	149	648	1,295

3. 石部ケアセンター職種別職員数 (令和4年3月31日現在)

職種	(医師) 施設長	事務長	副施設長	薬剤師	栄養士	管理	PT OT	支援相談員	(含DC) 看護師	(含DC) 介護職	専門員 介護支援	事務員	その他
常勤職員	1 (1)	0	1 (1)	0	1		5	3	6	25	1	2	1
非常勤職員	0	0	0	0	0		0	0	4	21	0	0	3
嘱託	0	0	0	1	0		0	0	0	0	0	0	0
合計	1 (1)	0	1 (1)	1	1		5	3	9	47	1	2	3

() : 内兼務

職員数

* 総人数 76名

4. 年間行事等実施内容

別紙のとおり

令和4年度 行事等実施報告書(石部ケアセンター)

月	項目		行事		その他	
	日	日	日	日	日	日
4月						
5月						
6月						
7月						
8月						
9月						
10月						
11月						
12月						
1月						
2月						
3月						

八起会ホームヘルプステーション

(令和4年度 総括)

1. 総括

今年もコロナ禍の運営を余儀なくされる中、当事業所は在宅サービスを支える使命感を持ち、基本サービスに加え、感染対策をより強化した体制で臨んだ。他サービス事業所や居宅介護支援事業所との連携を密にし、利用者の要望に応え満足度を高められるよう努力することを事業所の全員が共有し、事業推進を行った。また、サービスの質の向上をより明確にするため、職員教育を目的にした研修へ参加させ、職員教育の基盤づくりを行った。

昨年同様に障害者総合支援法に基づくサービスは、地域会議が新型コロナウイルスの影響で中止され、地域のニーズや障害者サービスの動向についても調査を継続することができなかった。その結果、同行援護・居宅介護・重度訪問介護サービスは新規利用者はゼロであった。

□ 業務面より

令和4年度は、前年度以上に居宅介護支援事業所と密に連携を図る等の対策を講じたが、事業所登録利用者数は49名(前年対比9名減)となった。

障害者総合支援法に基づくサービスにおける利用者数は4名(令和3年度4名)となり増減は無かった。令和4年度中の事故件数は0件(令和3年度0件)、ヒヤリはつと件数は1件(令和3年度0件)であった。また、苦情件数は5件(令和3年度0件)であった。

□ 経営面より

介護保険利用者延べ人数は、584名(令和3年度616名)の32名の減となった。派遣回数は5,092回と令和3年度4,684回より408回の増となり、サービス提供時間は3,593時間と令和3年度3,473時間より120時間の増となった。

障害者総合支援法における利用者への派遣回数は、対象者が介護保険サービスと総合支援サービスを複合利用された為、278回(令和3年度272回)より6回の増であった。

サービス活動収益は、19,036千円で、訪問回数の増加により前年対比1,255千円増加した。人件費は前年対比2,390千円減。物件費等前年比137千円減。減価償却は前年対比増179千円あった。サービス活動増減差額は2,500千円であった。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
4年度	19,036	14,552	1,360	623	2,500
3年度	17,781	16,942	1,497	444	▲1,102
2年度	14,732	15,836	1,471	219	▲2,794

2. 利用者数(派遣利用者数)

ホームヘルプステーション

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
介護保険(人数)	52	53	56	53	51	47	312
派遣回数	438	459	483	452	455	454	2,741
サービス提供時間	313	330	339	318	320	311	1,931
障害者総合支援(人数)	3	3	4	3	3	4	20
派遣回数	19	22	20	20	25	27	133
サービス提供時間	22	26	22	23	28	31	152

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
介護保険(人数)	47	47	47	45	43	43	272	584
派遣回数	434	436	342	370	362	407	2,351	5,092
サービス提供時間	301	302	241	273	257	288	1,662	3,593
障害者総合支援(人数)	3	3	4	3	3	4	20	40
派遣回数	26	24	26	23	23	23	145	278
サービス提供時間	28	25	30	25	25	29	162	314

3. ホームヘルプステーション職種別職員数(令和5年3月31日現在)

	所長	サービス提供責任者	ヘルパー職員
常勤職員	兼務1	兼務2	3(サ責含む)
パート等非常勤職員			2
合計	兼務1	兼務2	5

介護老人福祉施設もみじ(入所・短期入所)

もみじデイサービスセンター

もみじケアプランセンター

(令和4年度 総括)

1. 総括

令和4年度で大きく業績に影響があったのは、ショートステイ利用者から感染拡大をした新型コロナウイルスであり、在宅部門であるショートステイとデイサービスの利用の制限をせざるを得ない状況になったことである。感染における対応と理解は当初と比較するとかなりの変化がみられているが、今後も各関係機関との連携と事前準備と早期対応が求められる。在宅部門の利用停止は利用されている家族にとっては、受け入れがたい心情があり、感染症等に負けない安定したサービス提供をすることが、今後における利用率維持・向上につながっていくと感じる。水道光熱費、ガス代等の高騰による支出が増加したものの、年間賞与額を抑えたこと等で人件費が下がっており、サービス活動増減差額は前年より約1,500千円の増加となった。

地域活動においても新型コロナウイルスによる影響が強く、夏祭りの開催や地域サロンへの参加は無いままで経過した。徐々に制限が解除されることも予測されることから、引き続きの関係性の継続を図りたい。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
4年度	359,612	224,913	95,153	29,613	9,933
3年度	360,917	233,019	87,326	32,136	8,436
2年度	350,858	223,383	89,655	27,003	10,817

(1) 施設入所事業

令和4年度にあたっては、退所者が12名であり、平均16.9日の空床期間での入所となった。前年同様、新型コロナウイルス感染症の影響により入所前の施設を退所できずに当施設入所が遅れたことや当施設での感染者発生中に入所できなかったことが最大の理由であった。また待機者は以前より複数の施設に申し込みをされているが、待機上位者はどこの施設でも上位にあがっていると思われ、空床になった時点で連絡してもすでに他施設入所が決定していたケースが見受けられた。上位者を増加させるかタイミングを早めるかの対策が必要である。利用率目標はクリアできた。(空床期間:令和1年度=9.7日、令和2年度10.2日、令和3年度13.3日)年間利用率は98.10%(令和3年度98.40%)であった。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
4年度	218,237	131,095	59,654	20,047	7,441
3年度	213,394	137,198	54,551	21,365	280
2年度	209,838	128,494	55,419	17,415	8,510

(2) 短期入所事業

令和4年度の利用率は目標である80%を下回り、達成とはならなかった。9月に利用者から新型コロナウイルスの発症が認められ、職員も含め拡大してしまったことで利用を中止したことが大きな要因といえる。下期には新規利用者が増えるものの利用が1回のみの方が数名おり、継続しての利用を促すことも必要である。もともとそのような利用が目的ではあったが、利用満足度を高め、継続して利用していただけるように努めたい。

ショートステイの事業についてはサービスの提供内容の質を向上し、安定した利用率を目指し、サービス活動増減差額のマイナスをいかに抑えるかがポイントとなる。

年間利用率は76.84%(令和3年度82.24%)

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
4年度	66,587	51,789	20,818	4,932	▲10,952
3年度	68,490	52,923	19,290	5,505	▲9,227
2年度	57,598	50,814	20,035	4,570	▲17,821

(3) もみじデイサービスセンター

令和4年度は、昨年度に引き続き利用率の回復には至らず、連続して目標を大きく下回った。異動により相談員を変更したが、根本的な改善には至らず、また上記の通り、ショートステイの新型コロナウイルス感染拡大に伴って、職員の配置のためにデイサービスを中止したことも要因である。また当所を単独で利用されていた方が、他事業所と併用されるケースがあり、今後も同様に回数を減らされることもあり得る。永源寺東部の利用は限界があり、中心部の客層を視野にいれたい。

年間利用率は62.04%(令和3年度67.30%)

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
4年度	56,603	27,573	13,917	4,411	10,702
3年度	59,902	27,970	12,693	5,107	14,132
2年度	66,231	29,458	13,959	4,656	18,158

(4)もみじケアプランセンター

もみじケアプランセンターは、新規の利用者もそれなりに獲得でき収益としても安定した結果となった。ケアマネジャーの異動を実施したが、地域特有の関連機関との連携がうまくいかず、業務に支障があったことは否めない。ただ、時間の経過と地道な努力により少しずつ改善傾向にあり、ある意味の強さを持てるようになった。事業所の規模としては、加算も取れることから3名体制であることが望ましいと考える。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
4年度	18,185	14,456	765	223	2,741
3年度	19,131	14,928	793	159	3,251
2年度	17,190	14,616	840	362	1,372

2. 年間延べ利用者数(もみじ入所・短期入所・もみじデイサービスセンター・もみじケアプランセンター)

(1)もみじ入所

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者 延べ人数	1,488	1,532	1,471	1,550	1,548	1,486	1,482	1,492	1,527	1,523	1,388	1,550	18,037
(内)入 院・外泊 数	24	16	19	0	8	8	14	8	11	36	0	0	144

(2) もみじ短期入所生活介護(予防含む)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者 延べ人数	446	463	452	516	491	464	428	441	493	488	409	522	5,613

(3) もみじデイサービスセンター

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	要支援	13	14	14	14	15	13	13	14	12	12	13	13	160
	要介護	55	54	55	53	52	50	50	52	53	49	44	46	613
延べ 利用 日数	要支援	77	69	77	81	81	51	70	74	71	50	60	71	832
	要介護	549	560	548	543	565	535	516	523	538	423	407	482	6189

(4) もみじケアプランセンター

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計画 作成 数	予 防	46	45	44	43	46	40	41	39	39	40	41	42	506
	介 護	86	84	82	79	78	77	56	75	77	74	69	70	907
合 計		132	129	126	122	124	117	97	114	116	114	110	112	1,413

3. 職種別職員数(令和5年3月31日現在)

事業	職種	施設長 管理者	事務長	事務員他		介護 支援 専門員	生活 相談員	管理 栄養士	看護職員		介護職員		嘱託 医	指導員 機能 訓練		合 計
				常 勤	非 常 勤				常 勤	非 常 勤	常 勤	非 常 勤				
入所	短期 入所	(2)	0	2	3	(1)	2	(1)	5 (1)	0	22 (1)	22	1	(1)	0	57 (7)
						0										
デイ サービス	(1)	0	0	2	0	1 (1)	(1)	(1)	(3)	2 (1)	6	0	(1)	(3)	9 (12)	
ケアプラン センター	(1)	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3 (1)
合計	(4)	0	2	5	3 (1)	3 (1)	(2)	5 (2)	(3)	24 (1)	28	1	(2)	(3)	71 (19)	

() = 兼務

4. 年間行事等実施内容

別紙のとおり

項目 月	行事		職員研修・会議等		災害訓練		健康管理・衛生管理		
	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容	
10月	27	DSおやつ作り	4	下期人事考課研修	18	認知症介護実践者研修	3	エレベーター点検	
	28	DSおやつ作り	5	下期人事考課研修	19	法人リーダー研修	8	受水槽清掃	
			6	財務分析小委員会	20	リーダー会議	9	石部施設停電	
			7	下期人事考課研修	21	給食会議	17	受水槽水質検査	
				新人研修		財務小委員会	21	厨房害虫駆除	
				下期人事考課研修		中堅研修打ち合わせ	28	インフルエンザ予防接種(職員)	
				介護職員チームリーダー養成研修		管理職研修			
				入浴会議	24	部次長会議			
			10	入所検討委員会		チーム永源寺			
			11	身体的適正化検討委員会		法人サービス向上委員会			
				褥瘡予防委員会	25	介護労働安定センター			
				サービス向上委員会	26	認知症実践者研修			
				リスクマネジメント委員会		マネージャー育成研修			
			12	認知症介護実践者研修	27	施設長会議			
			13	認知症介護実践者リーダー研修		経営対策委員会・介護品質小委員会			
			14	衛生委員会	28	感染症会議			
				介護職員チームリーダー養成研修					
			マネージャー研修						
		17	看護会議						
11月	9	庭木の手入れ(八風会) 地域ゴミ拾い	1	身体的適正化検討委員会	17	法人研修委員会	8	インフルエンザ予防接種(職員)	
				褥瘡予防委員会		給食会議	17	インフルエンザ予防接種(利用者)	
			2	事務会議(WEB)	18	入所検討委員会	24	インフルエンザ予防接種(利用者)	
			4	認知症実践者研修		OJT推進リーダー研修	25	水質検査	
			7	シフト調整会議		部次長会議・適正人員加算委員会			
			8	中堅研修打ち合わせ	21	認知症実践者研修			
				介護職員チームリーダー養成研修		介護職員チームリーダー養成研修			
				看護会議		施設長会議			
			10	衛生委員会		経営対策委員会・介護品質小委員会			
			11	入浴会議	28	法人感染対策会議(ZOOM)			
			14	法人リーダー研修		チーム永源寺			
			15	東近江ネットワーク会議	29	女性キャリアアップ研修			
			16	中堅研修打ち合わせ	30	認知症介護実践者研修			
				労務管理セミナー(WEB)		外国人向けマナー研修			
			17	リーダー会議					
	12月	22	門松作り(ポランティア)	2	介護職員チームリーダー養成研修	20	法人サービス向上委員会(ZOOM)	1	ワックス清掃
				5	シフト調整会議	21	中堅研修打ち合わせ	2	ワックス清掃
			6	身体的適正化検討委員会		健康管理規模訓練	20	エレベーター点検	
			7	褥瘡予防委員会	22	リーダー会議	21	水質検査	
				認知症介護実践者研修		給食会議	22	入所者コロナワクチン接種	
			8	法人リーダー研修	26	入所検討委員会			
			9	衛生委員会		認知症介護実践者研修			
			12	中堅研修打ち合わせ	27	チーム永源寺			
			15	看護会議		部次長会議			
			16	加算等小委員会		施設長会議			
				認知症介護実践者研修		経営対策委員会・介護品質小委員会			
				入浴会議(書面)					
			6	シフト調整会議	18	経営対策委員会・事務会議打ち合わせ	30	避難訓練(夜間想定)	
			10	新年挨拶まわり		スタック施設紹介	17	夜勤者健康診断	
				身体的適正化検討委員会	20	入浴会議	23	厨房害虫駆除	
				褥瘡予防委員会	23	部次長会議			
				サービス向上委員会		チーム永源寺			
			リスクマネジメント委員会	26	認知症介護実践者研修				
		11	認知症介護実践者リーダー研修		リーダー会議・給食会議(書面)				
		12	法人研修委員会		入所検討委員会				
		13	認知症介護実践者研修	27	OJT推進リーダー研修				
			衛生委員会		施設長会議・経営対策委員会				
		16	EPA入社式	31	認知症介護実践者リーダー研修				
			看護会議		外国人向けマナー研修				
			中堅研修打ち合わせ		管理者研修				
1月	20	DSおやつ作り	1	福祉法人ネットワーク会議	17	入浴会議	14	エレベーター点検	
	21	DSおやつ作り	6	シフト調整会議		管理者研修	15	消防立入検査	
	22	DSおやつ作り	7	中堅研修打ち合わせ	19	中堅研修打ち合わせ	27	夜勤者健康診断(問診)	
				身体的適正化検討委員会	21	東近江ネットワーク会議			
			9	褥瘡予防委員会		管理栄養士実務者研修会			
			13	人事考課研修	22	2丁目フロア会議			
			14	看護会議	23	人権研修			
			15	法人サービス向上委員会	24	マネージャー育成研修			
			16	中堅研修		体制についての会議			
				リーダー会議	27	1丁目フロア会議			
				給食会議		外国人向けマナー研修			
				入所検討委員会		チーム永源寺			
			17	加算・適正人員委員会・財務分析小委員会	28	女性キャリアアップ研修			
			2	中堅研修打ち合わせ	13	法人業績向上委員会(WEB)	29	消防避難訓練	
			3	新人フォローアップ研修	14	チーム永源寺	8	消防設備点検	
			6	OJT推進リーダー研修		身体的適正化検討委員会	23	濾過機・ボイラー点検	
			7	シフト調整会議	17	褥瘡予防委員会			
			認知症介護実践者研修		キャリアアップ研修				
		8	施設管理者研修	20	管理職研修				
		9	法人リーダー研修		部次長会議・加算小委員会・LIFE・情報管理委員会				
		10	衛生委員会(WEB)	22	東近江ネットワーク会議				
			中堅研修	27	入浴会議				
			財務小委員会(ZOOM)		施設長会議・経営対策委員会				

特別養護老人ホーム あぼし(入所・短期入所)

(令和4年度 総括)

1. 総括

令和4年度も事業計画に基づき「利用者本位のユニットケア」に努めた。新型コロナウイルス感染症の影響により、サービス提供や利用者家族、地域との関りにおいて、制限を余儀なくされることが多々あったが、その中でもケアの質の向上を目指し、職員一人ひとりが知識・技術の向上に重きをおき取り組むことができた。また、入所者の介護度が重度化してくる中で、今年度は新たに移乗用リフトを2台導入し、利用者・介護者の負担軽減に努めることができた。

今年度は退職者が多数あり、年度当初から慢性的に人員不足の状況が続いた。しかし、その中でも業務の改善や他職種との連携を強化することで支障をきたすことなく運営ができた。次年度については、職員体制の安定を図るため、年度末から新たに増員となったEPA職員3名の指導を進めていく。また、各職員の更なる知識・技術の向上に努め、施設全体の介護レベルの向上に努めていく。

<時系列推移表 施設全体>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
4年度	352,581	207,357	86,554	22,548	36,122
3年度	342,027	200,103	83,162	22,251	36,511
2年度	341,797	200,162	77,405	21,931	42,299

(1) 施設入所事業

利用率 97.87%と目標を達成することはできたが、退去後から次期入所までの空床期間が長期になることが多くあった為、次年度については、次期入所者の選定を迅速に行い空床期間の短縮に努めていく。

今年度の退所者(死亡等)は 13名で、現在の待機者は 106名となっている。迅速な選定を行うためにも常に待機者の意向調査や面談等を行っていく。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
4年度	317,552	175,113	75,307	17,064	50,069
3年度	305,984	168,971	75,307	16,769	47,721
2年度	306,655	168,986	67,769	16,437	53,462

(2) 短期入所事業

今年度も在宅で生活されている要支援・要介護高齢者の自立(自律)へ向けてのサービスの提

供、また、利用者本人のみならず家族の支援も踏まえたサービスの提供および「施設と在宅の一元化」を目指したサービスの提供に努めた。

利用率は 63.59%と目標未達であった。今年度の月平均利用者数は 23.75名であり、新規利用者の開拓とリピート利用につなげていくことが急務の課題である。次年度については感染対策を継続しつつ、新規利用者の獲得のため、居宅介護支援事業所からの相談に対し迅速な受け入れ対応と柔軟なサービス対応に取り組んでいく。また、リピート利用を増やしていくためにサービスの向上に努めていく。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
4年度	35,028	32,244	11,247	5,485	▲13,947
3年度	36,043	31,131	10,638	5,483	▲11,209
2年度	35,142	31,175	9,636	5,494	▲11,164

2. 年間延べ入所・利用者数 (上段:あぼし施設入所・下段:短期入所)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
施設入所者	1,735 (2)	1,829 (0)	1,765 (0)	1,800 (0)	1,811 (14)	1,758 (29)	1,811 (11)	1,749 (47)	1,801 (31)	1,829 (71)	1,611 (27)	1,812 (4)	21,311 (236)
短期入所利用者	243	223	204	210	179	199	159	213	242	218	201	261	2,552
合計	1,978	2,052	1,969	2,010	1,990	1,957	1,970	1,962	2,043	2,047	1,812	2,073	23,863

*施設入所者欄()は入院による空床日数(内数)

3. 職種別職員数(令和5年3月31日現在)

	施設長	事務員	生活相談員	介護支援専門員	管理栄養士	介護職員		看護職員		機能訓練指導員	調理員	医師		その他	合計
						常勤	非常勤	常勤	非常勤			常勤	非常勤		
施設入所事業 短期入所事業	1	2	1	1	2	26	12	3	1	(1)	委託	/	1	10	59

*介護支援専門員は特養専任

*上記の内、管理栄養士1名は育児休業中

4. 年間行事等実施内容
別紙のとおり

令和4年度 行事等実施報告書(あぼし)

項目 月	行		事		職員研修・職員会議等		災害訓練		健康管理・衛生管理	
	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容
4月	毎月	お誕生日会	毎月	ブロック会議	15	事務一元化会議			6	厨房害虫駆除
	5	手作りおやつ(ティラミスとチョコケーキ)	1	就業規則・コンプラ研修	20	常勤転換・中途正職研修			11	エレベーター点検
			4・20	新入職員研修					11	給湯器点検
			5	役職者会議					14	ラレジュ(移動散髪)
			5	給食会議					19	ガス保安点検
		7	入所検討会議							
		7	NS会議							
5月	毎月	お誕生日会	毎月	ブロック会議	19	中堅職員研修・オリエンテーション			2・3	床ワックス清掃
			6	NS会議	19	フレッシュマンリーダー研修			19	ラレジュ(移動散髪)
			10	役職者会議	28	身体拘束廃止虐待防止検討委員会			24・25	エアコンフィルター清掃
			10	給食会議	31	外国人職員研修			26	非常灯点検
			12・20	新入職員・パートナー正職員研修						
		18	新入職員フォローアップ研修							
6月	毎月	お誕生日会	毎月	ブロック会議	15	リーダー研修			16	エレベーター点検
			7	役職会議	22	リスクマネジメント委員会			22	防火・非常灯点検
			7	給食会議	23	女性キャリアアップ研修			24	ラレジュ(移動散髪)
			7	入所検討会議	24	施設長会議			22	利用者健康診断
			7	入所検討会議	28	NS会議			29	職員健康診断
		8・28	認知症介護実践者研修	30	業務改善委員会					
7月	毎月	お誕生日会	毎月	ブロック会議	14・26	認知症介護実践者研修	22		7	厨房害虫駆除
			5	役職会議	14	フレッシュマンリーダー研修			12	職員健康診断
			5	給食会議	27	褥瘡・排泄委員会			14	ラレジュ(移動散髪)
			5	入所検討会議	28	施設長会議				
			6	医療的ケア委員会	29	外国人職員研修				
		7	法人衛生委員会							
8月	毎月	お誕生日会	毎月	ブロック会議	14	身体拘束廃止虐待防止検討委員会			12	ラレジュ(移動散髪)
			1	認知症基礎研修	26	嘔吐物処理演習			21	利用者4回目コロナワクチン接種
			2	NS会議	29	認知症介護実践者研修				
			3	防火管理委員会	25	新人フォローアップ研修				
			9	入所検討会議						
9月	毎月	お誕生日会	毎月	ブロック会議	21	中堅職員研修			8	窓ガラス清掃
			6	給食会議	29	感染委員会			12	ラレジュ(移動散髪)
			6	入所検討会議	30	外国人向けマナー研修			15・21	非常用照明工事
			20	フレッシュマンリーダー研修					22	空調設備点検
			毎月	ブロック会議	18	サービス向上委員会			2	消防設備点検
10月	18・19	お誕生日会	毎月	役職会議	13	リーダー研修			9	計画停電
	31	あぼし花火大会	4	給食会議	25	中堅職員研修			13	エレベーター・ボイラー点検
		合同ハロウィンパーティー	4	入所検討会議	26	マナーリーダー研修			14	ラレジュ(移動散髪)
			5・6・7	人事考課研修	27	施設長会議			23	エアコンフィルター清掃
			18	サービス向上委員会	27	リスクマネジメント委員会			25・31	職員インフルエンザ予防接種
11月	毎月	お誕生日会	毎月	ブロック会議			25	消防訓練(3施設合同)	1・2	ワックス清掃
	1～30	窓越し面会期間	1	役職会議					4	職員インフルエンザ予防接種
			1	給食会議					4	電解水修理
			2	入所検討会議					15	ラレジュ(移動散髪)
			19	身体拘束廃止虐待防止検討委員会					27	利用者インフルエンザ予防接種
12月	毎月	お誕生日会	毎月	ブロック会議	26	感染対策委員会			15	ラレジュ(移動散髪)
	7	手作りおやつ(りんごトバケケーキ)	6	入所検討会議	27	施設長会議			15	エレベーター点検
	23	餅つき大会	18	業務改善委員会	18	防犯会議			25	利用者コロナワクチン5回目接種
			21	中堅職員研修						
			23	リスクマネジメント委員会						
1月	毎月	お誕生日会	毎月	ブロック会議	20	褥瘡・排泄委員会	24	防犯訓練	13	ラレジュ(移動散髪)
	13	EPA入社式	10	入所検討会議	24	改善委員会			19・25	夜勤従事者健康診断
			10	リーダー研修	24	感染対策委員会			23	厨房害虫駆除
			10	EPA会議	31	外国人向け研修				
			18	新任役職者会議						
2月	毎月	お誕生日会	毎月	ブロック会議	21	ケアプランデーター研修			9	下水配管清掃
			2・3・10	人事考課研修	24	マナーリーダー研修			13	ラレジュ(移動散髪)
			5・12	認知症基礎研修	24	身体拘束廃止虐待防止検討委員会			15	エレベーター点検
			7	入所検討会議	27	外国人職員研修			21	夜勤従事者健康診断(問診)
			7	役職者会議	28	女性キャリアアップ研修				
		15	中堅職員研修							
3月	毎月	お誕生日会	毎月	ブロック会議	7	給食会議	29	消防訓練(3施設合同)	7	空調設備点検
	29・30	お花見ドライブ	2	入所検討会議	8	身体拘束廃止虐待防止検討委員会			10	ラレジュ(移動散髪)
			2	リーダー研修	10	中堅職員研修			24	窓ガラス清掃
			3	リスクマネジメント委員会					26	消防設備点検
			7	褥瘡研修(外部講師)						

通年

毎週火・土 利用者歯科往診
毎週土 利用者小川Dr・往診

デイサービスセンター にこここ

(令和4年度 総括)

1. 総括

- ・利用者が住み慣れた地域で顔馴染みの人と一緒に安心した生活が少しでも長く続けられるように、認知症の進行予防に重点を置き、利用者それぞれの状態に合わせた対応を心がけ、一人ひとりが個性を発揮して、やりがいを持ち、いきいきと楽しく過ごしていただけるような雰囲気作り、ケアの提供に努めた。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大でボランティアの受入について、Zoomによるボランティア活動の受入も検討したが、見えにくい、そこに居ない、聞こえにくい等テレビを見ている感じとなってしまうとの意見を受け依頼はせず、感染予防対策を徹底して実際に来ていただき折り紙1回・編み物2回活動していただいた。利用者の認知症の進行予防につながる活動として、洗い物、洗濯物たたみ、ビニール袋たたみ、シール貼りなどの日常生活の中の作業を一緒に行い活躍できる場面を意図的に設けるようにした。利用者から洗いに来て下さり、「何か手伝おうか」などの声が聞かれ、自分の好きな事、自信を持ってできる事なのでいきいきとした表情で活動に取り組まれているため、今後も継続していきたい。何もしたくないと言う方には会話を楽しんでもらうこと、苦手な事を無理にするよりかはゆっくりしていただく様子を観ており、編物や裁縫される方、畑で野菜を育てる方、花壇で花を育てるかた、ピアノを弾かれる方、その方の能力や個性に応じて活動メニューを決めて過ごしていただいた。また、四季折々の体験をしていただくことも大切に、懐かしい話で回想し、自然と色々な会話に花が咲き、その時が笑顔になれる取り組みを心掛けた。帰る前には、利用者にピアノを弾いていただき皆さんで懐かしい歌を唄い、楽しい気分で帰所していただいている。
- ・毎日の「百歳体操」を今年度も継続して行い、身体機能の維持、低下予防に努めた。利用者の中で習慣となった方もあり、意欲的に取り組まれている。また、リハビリ器具であるルームサイクルを使用し、昼食後の5分から15分の運動を取り入れ、下肢筋力の維持に努め、集団体操では全身を使い固くなった筋肉を少しほぐすようにし身体機能の維持に努めた。
- ・利用者一人ひとりの認知症の症状に着目して観察を行い、ミーティングで情報共有し、ケアの改善を図り、利用者・利用者家族やケアマネジャーとも連携を取るように努めた。認知症の症状が日々変化していく方々を職員の思い込みにならないように話し合い共有している。
- ・平成28年度より継続して、その月の行事や日々の様子の写真をケアマネジャーにはモニタリングの用紙に載せ、利用者家族には手紙としており、今年度からは法人ホームページでブログの活用も始めた。
- ・運営推進会議については、年に2回の予定であったが、1回目を7月に開催した後、新型コロナウイルスの状況により2回目を報告書で送付という形をとった。
- ・「にここカフェ・介護なんでも相談所」(湖南省認知症地域支援推進事業)を毎月第2・4土曜日に感染症対策により定員10名までとし開催。年間合計で13名の方の来所があった。市役所や

図書館、老人福祉センターに案内文を置かせていただいたり、回覧板で地域へ発信させていただくことで事業を広め、案内をみた方からの電話での相談等もあった。来所される方は近所の方が多く、相談としては、「介護認定を受けてケアマネをどこに頼んだらいいのかわからないのか、誰がいいのか」と聞きに来られる等の介護相談があり去年より相談所としての役割ができたと感じている。また雑談に来られる方もおられ、地域のコミュニティとしても認知されてきたと感じた。

- ・今年度は、地域の施設を借りて「介護者の集い」を開催することができた。5月と1月計2回の予定であったが5月は参加者合計10名集まったものの1月は参加者0名であったため中止し次年度に延期とした。自宅で介護されている方が日々の思いを話せ、いろいろな方との交流で地域の支援を活用していただける場を提供できたと考える。今後も、多くの方に足を運んでいただける場になるように内容を検討していきたい。
- ・地域密着型事業所として来年度は地域の方との関わりの場(避難訓練や、認知症をテーマにした学習会の開催等)を積極的に設けていきたい。

(時系列推移表)

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
4年度	23,203	12,516	3,483	2,856	4,348
3年度	20,872	13,380	3,463	2,717	1,311
2年度	24,807	13,599	3,665	2,724	4,819

2. 年間延べ利用者数

令和4年度末現在の登録利用者数は14名。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	142	149	150	162	179	193	158	167	142	122	130	162	1,856
1日当たり平均利用者数	6.76	6.77	6.82	7.71	7.88	8.77	7.52	7.59	6.17	6.10	6.50	7.04	7.10
利用率(%)	56.35	56.44	56.82	64.29	64.86	73.11	59.92	62.12	51.81	50.83	52.5	58.70	58.98

※. 令和4年度の1日平均利用者数は7.1名、利用率58.98%(令和3年度の1日平均利用者数は6.6名 利用率54.66%) 人数で1日0.5名増、利用率は、約4.32%増であった。年間の利用者延べ人数は1,856名(介護給付のみ、介護予防は0名)、前年は延べ人数1,705名であり今年度は151名上回った。平均要介護度は2.1(平成3年度は2.0)。

※. 年間の延べ人数、1日の平均人数、利用率ともに3年度と比較して増加。令和5年度の目標は、65%で設定。必ず達成できるように職員で力を合わせて日々のケアの質の向上を図り、新

規利用者の獲得、現在利用されている方の満足度の向上に努めていきたい。

利用率の推移を見ると、特養みやのみに2名入所、小規模多機能に1名サービスを変更され利用率が減ったが、他事業所からの利用申し込みがあり、現在の利用者の回数が増えた事で昨年度より利用率がアップした。

来年度は、にこにこの特性を生かし、居宅介護支援事業所へのアプローチをして、新規獲得で利用率を上げていきたい。職員1名の新型コロナウイルス感染者があったが、他の方への感染が出なかったことは不幸中の幸いとする。

2. 職種別職員人数(令和5年3月31日現在)

管理者	生活相談員	ケアワーカー	機能訓練指導員
1	1	3(3)	1(兼務)

():非常勤職員

地域密着型特別養護老人ホームみやのもり(入所・短期入所)

みやのもりデイサービスセンター 八起会みやのもりリハビリステーション

(令和4年度 総括)

1. 総括

開設以来、チームケアを目標に「利用者が生活の場として家庭的な雰囲気の中で安らかな毎日が送れるように、個別の尊重・利用者本位のサービス提供を行う」ことを常に念頭に入れて施設運営を行っている。

今年度も、新型コロナウイルス感染症が拡大する中で施設運営・活動の自粛を余儀なくされる状況となった。短期入所事業では、コロナ感染予防で利用の自粛等をお願いすることもありましたが、施設内での感染拡大を防ぐことで、事業の安定継続に努めた。また、運営推進会議の開催についても、自粛をすることとなり今年度は1回のみで開催となった。ただ、自粛をする中でも運営委員の方との意見交換を行い、特に新型コロナウイルス感染症に対する地域の状況や施設の状況、対応等の情報を共有することができ、互いに理解を深めることができた。

施設運営については、「サービスの向上」を目指し、各事業で課題を掲げ取り組んできた。各研修や訓練が視聴研修に変更せざる得ない状況も続いたが、緊急時の対応方法については AED の活用と心臓マッサージの訓練を実践で行い、利用者の安全確保と職員の育成に努めた。

<時系列推移表:施設全体>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
4年度	252,852	163,605	61,628	22,000	5,617
3年度	241,659	153,496	60,106	22,423	5,634
2年度	248,331	146,059	57,326	22,685	22,261

(1) 施設入所事業

近年、入所者の重度化に加えて、日常生活継続支援加算により、要介護4以上と重度認知症利用者が増加し、身体介助や認知症への対応、医療面などを含めて介助量はさらに増加している。

サービス面では、今年度も看取りケアの充実を目指し、入所者家族や医療との連携の強化を図った。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により面会制限を実施していたが、看取り期の方や体調不良者のみ、感染対策を徹底し面会を実施することで、入所者家族の安心に繋げることができた。また、デスクカンファレンスの内容の充実を図り、看取りケアの質も向上できた。

業績面は、今年度の退所者は8名(令和3年度11名)。利用率は98.93%(令和3年度96.84%)であった。

近年の懸案事項である入所申込み数は、67名(令和3年度64名)であった。しかし、競合する

他施設との利用者の奪い合いは益々厳しい状況になっている。また、重度化が進む中、急変される利用者も増加してきており、退所日が予測できない状況が多かった。新規利用者の受け入れがスムーズに行えるよう、入所事前面接を随時行い、空床の期間の短縮に努めていく。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
4年度	166,993	88,616	36,270	15,968	26,137
3年度	160,801	81,331	34,509	16,449	28,511
2年度	158,534	77,513	32,984	16,666	31,370

(2) 短期入所生活介護事業

在宅で生活されている要支援・要介護高齢者の自立(自律)へ向けての「施設と在宅の一元化」を目指したサービスの提供並びに家族の介護負担の軽減(レスパイトケア)を図れるサービスの提供に努めた。

今年度の利用率は63.88%と昨年よりはプラスとなったが、目標を大幅に下回る結果となった。要因の一つとして、新型コロナウイルス感染症による利用制限や利用自粛があったこと、新規利用者のリピート率が低く、安定した運営に繋がらなかった。

今後の対策として、サービスの質の向上を図り、利用者・家族の満足度を向上させリピーターを増やしていけるよう努めていく。また、急な依頼に対してもできる限り受入れる体制をもち、新規利用者の獲得に力を入れていく。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
4年度	46,290	42,035	14,120	3,759	▲13,624
3年度	43,205	38,667	13,687	3,852	▲13,001
2年度	46,006	36,759	12,900	3,881	▲7,534

(3) みやのもりデイサービス事業

利用者が落ち着いた雰囲気の中で自分らしい在宅生活を継続できるよう支援に努め、利用者家族の潜在的なニーズに働きかけ、短期入所生活介護事業との連携を深める等、併設の通所介護事業所としての特色を活かした運営を行った。また、職員一人ひとりが利用者満足に満足していただけるように接遇に対する目標を持ち、丁寧な対応を心掛け、サービスの向上に努めた。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響があり、十分な行事やレクリエーション等を行えない状況であったが、その中でも、制作活動や紙芝居等の新たな取り組みを行えた。しかし、職員、利用者共にデイサービス内での新型コロナウイルス感染が幾度か確認される結果となり、8月には2日間の営業を休止せざるを得ない状況となり、利用率低下、減収の要因となった。ただ、早期対応

ができたことにより拡大を最小限にとどめることができた。結果として、利用率は 62.55% (令和 3 年度 59.98%) と 2.57% の増となったものの、目標を下回る結果となった。

今後については、今年度の経験を活かし、感染予防に努めると共に、サービスの向上に努め利用率のさらなる増加を目指したい。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
4年度	35,061	29,147	9,879	1,745	▲5,710
3年度	33,425	30,261	10,492	1,772	▲9,099
2年度	39,710	27,964	10,164	1,807	▲226

(4) みやのもりリハビリステーション事業

利用者が自立(自律)した日常生活を営むことができるよう、通所型サービスのうち緩和した基準によるサービスとして運営を行った。

特色であるリハビリ機器を十分に活用したリハビリメニューを実施し、また、専門職によるリハビリ指導やアドバイスを行うことで、総合事業の役割を果たすよう努めた。

年間の平均利用登録者数は 23.25 名。平均利用率 65.60% (令和 3 年度 65.84%) であった。新規利用者が継続利用に繋がらないことや軽介助が必要な状況もみられ、体験利用を活用して利用に繋げるように努めた。今後、地域包括支援センターとの連携を図り、利用対象者の情報収集を密に行い、ニーズのミスマッチを減らせるようにしていく。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
4年度	4,507	3,806	1,357	527	▲1,183
3年度	4,228	3,237	1,417	351	▲776
2年度	4,080	3,822	1,277	329	▲1,349

2. 年間延べ利用者数

(1) みやのもり施設入所事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者数	841	899	870	899	892	870	889	865	878	866	803	899	10,471
入院外泊数	27	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	44
合計	868	899	870	899	892	870	889	865	878	883	803	899	10,515

(2) みやのもり短期入所生活介護事業(ショートステイ)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	253	285	216	242	287	244	302	287	269	269	262	349	3,265

(3)-1 みやのもりデイサービス事業

(介護のみ 予防なし)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
デイサービス	343	343	316	316	315	352	349	337	344	271	282	313	3,881

(3)-2 みやのもりデイサービス登録者数 (令和 5 年 3 月 31 日現在)

申請中	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
0	1	2	1	2	3	4	5	
0	0	2	14	13	6	0	1	36 男性 9 女性 27

(4) みやのもりリハビリステーション事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
登録者	28	27	24	22	23	27	25	23	23	18	19	20	279
延べ利用者数	86	83	83	88	92	91	89	88	77	61	73	69	980

3. 職種別職員数(令和5年3月31日現在)

	施設長・所長	事務員	生活相談員		介護支援専門員	管理栄養士	栄養士	介護職員		看護職員		機能訓練指導員	調理員	医師		その他(非常勤)	合計
			常勤	非常勤				常勤	非常勤	常勤	非常勤			常勤	非常勤		
施設入所事業	{1}	1	1	1	1	{1}		19	7	2	(1)	(1)			1	2	35
短期入所生活介護										(1)	(1)						
デイサービス	(1)		1	(1)				1	3	(1)	(1)	(1)				2	7
リハビリステーション	(1)											{1}					(1)
合計	(2)	1	2	1	1	{1}		20	10	2	(2)	(2)			1	4	42
	{1}		(1)				(1)	(1)	(2)	{1}	{1}						(10)
																	{4}

() 施設事業所内兼務 ・ { } 本体施設兼務

4. 年間行事等実施内容
別紙のとおり

令和4年度 行事等実施報告書（みやのもり）

月	行		事		職員研修・職員会議等		災害訓練		健康管理・衛生管理	
	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容
4月			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 看取り研修			前期より	感染症予防対策 (面会制限実施) エレベーター点検
	12・10	手作りランチ	毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 正職員転換希望中途職員研修 新入職員フォローアップ研修 新入職員研修(新卒) 中堅職員研修構築メンバー研修 フレッシュマンリーダー研修 管理職研修 外国人向けマナー研修			11	エレベーター点検
5月			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 マナーリーダー研修 リーダー研修 管理職研修 新入職員研修(新卒) 正職員転換希望中途職員研修 女性キャリアアップ研修			27	エアコンフィルター清掃
	9・10	手作りおやつ	毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 新入職員研修(新卒) 正職員転換希望中途職員研修 医療的ケア研修 フレッシュマンリーダー研修 管理職研修 外国人向けマナー研修			16	エレベーター点検
6月			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 新入職員研修(新卒) 正職員転換希望中途職員研修 管理職研修 マナーリーダー研修 人事考課被考課者研修			27	入所者健康診断
			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 新入職員研修(新卒) 正職員転換希望中途職員研修 管理職研修 マナーリーダー研修 人事考課被考課者研修			29	(血液検査・胸部X線撮影) 職員健康診断
7月			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 新入職員研修(新卒) 正職員転換希望中途職員研修 管理職研修 外国人向けマナー研修			29	職員健康診断
			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 新入職員研修(新卒) 正職員転換希望中途職員研修 管理職研修 マナーリーダー研修 人事考課被考課者研修			5・8	職員健康診断
8月			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 新入職員研修(新卒) 正職員転換希望中途職員研修 管理職研修 マナーリーダー研修 人事考課被考課者研修			17	エレベーター点検
			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 新入職員研修(新卒) 正職員転換希望中途職員研修 管理職研修 マナーリーダー研修 人事考課被考課者研修			20	入所者コロナワクチン接種④
9月			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 人事考課被考課者研修 人事考課被考課者研修 新入職員研修(新卒) 正職員転換希望中途職員研修 管理職研修 フレッシュマンリーダー研修 中堅職員研修 女性キャリアアップ研修 外国人向けマナー研修			2	職員インフルエンザ予防接種
			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 人事考課被考課者研修 人事考課被考課者研修 新入職員研修(新卒) 正職員転換希望中途職員研修 管理職研修 フレッシュマンリーダー研修 中堅職員研修 女性キャリアアップ研修 外国人向けマナー研修			5	床清掃
10月			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 リスクマネジメント研修 中途職員研修(介護基礎) 人事考課被考課者研修 新入職員研修(介護基礎) 中途職員研修(ビジネスマナー) 新入職員フォローアップ研修 身体拘束研修 新任役職者研修 リーダー研修 マナーリーダー研修			4	職員インフルエンザ予防接種
			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 リーダー研修 管理職研修 正職員転換希望中途職員研修 中途職員研修(職場コミュニケーション) 女性キャリアアップ研修 外国人向けマナー研修 リーダー研修			13	エレベーター点検
11月			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 リーダー研修 管理職研修 正職員転換希望中途職員研修 中途職員研修(職場コミュニケーション) 女性キャリアアップ研修 外国人向けマナー研修 リーダー研修			14	ガラス清掃
			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 リーダー研修 管理職研修 正職員転換希望中途職員研修 中途職員研修(職場コミュニケーション) 女性キャリアアップ研修 外国人向けマナー研修 リーダー研修			1~30	入所者様窓面会実施
12月			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 リーダー研修 管理職研修 正職員転換希望中途職員研修 中途職員研修(職場コミュニケーション) 女性キャリアアップ研修 外国人向けマナー研修 リーダー研修			4	職員インフルエンザ予防接種
			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 リーダー研修 管理職研修 正職員転換希望中途職員研修 中途職員研修(職場コミュニケーション) 女性キャリアアップ研修 外国人向けマナー研修 リーダー研修			26	入所者インフルエンザ予防接種
1月			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 新任役職者研修 管理職研修 褥瘡排泄研修 外国人向けマナー研修			1	エレベーター点検
			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 新任役職者研修 管理職研修 褥瘡排泄研修 外国人向けマナー研修			1	入所者コロナワクチン接種④
2月			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 感染対策研修 リスクマネジメント研修 管理職研修 医療的ケア研修			14	EPA監査
			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 感染対策研修 リスクマネジメント研修 管理職研修 医療的ケア研修			17	入所者コロナワクチン接種⑤
3月			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 リーダー研修 管理職研修 正職員転換希望中途職員研修 中途職員研修(職場コミュニケーション) 女性キャリアアップ研修 外国人向けマナー研修 リーダー研修			18	夜勤従事者健康診断
			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 リーダー研修 管理職研修 正職員転換希望中途職員研修 中途職員研修(職場コミュニケーション) 女性キャリアアップ研修 外国人向けマナー研修 リーダー研修			19・25	夜勤従事者健康診断
4月			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 新任役職者研修 管理職研修 褥瘡排泄研修 外国人向けマナー研修			11	消防設備点検
			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 新任役職者研修 管理職研修 褥瘡排泄研修 外国人向けマナー研修			15	エレベーター点検
5月			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 新任役職者研修 管理職研修 褥瘡排泄研修 外国人向けマナー研修			9	消防・避難訓練
			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 新任役職者研修 管理職研修 褥瘡排泄研修 外国人向けマナー研修			1・2	床清掃
6月			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 新任役職者研修 管理職研修 褥瘡排泄研修 外国人向けマナー研修			8	ガラス清掃
			毎月	お誕生日会	毎月	リーダーブロック会議 新任役職者研修 管理職研修 褥瘡排泄研修 外国人向けマナー研修			17	AED講習会

令和4年度 行事等実施報告書（みやのもりデザインサービスセンター）

	行事					その他		
	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容
4月	4	持ち帰り製作	2・8・12・13・26・28	室内レク	6・16	手作りおやつ	1・5・9・14・25・27	温泉week
	15	ガーデンティー	11	手作りランチ	18～23	曜日対抗ゲーム	29・30	ティータイムweek
5月	16・19	室内レク	2・4・7・12・13・17・26	ガーデンティー	9・21	6月制作	10・20	温泉week
	16・19	紙芝居	18・24・28	DVD鑑賞	30・31	映画鑑賞	30・31	ティータイムweek
6月	7・15	室内レク	1・9・10・20・24・28	7月制作	6・23	手作りおやつ	3・8・11・14・27	温泉week
	7・15	ガーデンティー	16・22	紙芝居	29・30	映画鑑賞		ティータイムweek
7月	1・25	DVD鑑賞	2・4・9・22・26・27	室内レク	5・13・21	ティータイム	6・14・18	温泉week
	11・15・16・19・23	8月制作	12・23	手作りおやつ	29・30	映画鑑賞		ティータイムweek
8月	10・19	曜日対抗レク	22・23・24・25・26・27	室内レク	1・3・18	9月制作	6・9・12・15	温泉week
	10・19	手作りおやつ	8・16	紙芝居	13・30・31	映画鑑賞		ティータイムweek
9月	9・28	室内レク	1・6・10・23・26	10月制作	2	ガーデンティー	12～17	温泉week
	5・22	手作りおやつ	19	敬老会	8・20・29・30	映画鑑賞		ティータイムweek
10月	11・21・29・31	室内レク	6・10・14・19・25	11月制作	4・15	手作りおやつ	5・17	温泉week
	11・21・29・31	映画鑑賞						ティータイムweek
11月	16・19	12月制作	3・8・12・17・21・25	室内レク	4	焼き芋	2・7・23	温泉week
	16・19	手作りおやつ	11・14・26	DVD鑑賞	3・29	映画鑑賞		ティータイムweek
12月	15・19	1月制作	2・7・10・12・22・27	室内レク	13	ティータイム		温泉week
	15・19	手作りおやつ	14・20	DVD鑑賞	24	クリスマス会	30・31	ティータイムweek
1月	4	新年会	6	書初め	5・14・17・20・23・25	2月制作	7・10・13・18・19・26	温泉week
	9・28	ティータイム	24・27	手作りおやつ	11・16	DVD鑑賞	30・31	ティータイムweek
2月	13	室内レク	3・4・6・8・10・21	3月制作	7・16・24	紙芝居	11・23	温泉week
	13	ティータイム	15・18	手作りおやつ	22	持ち帰り制作	28	ティータイムweek
3月	7	室内レク	1・4・6・11・22・23・27・28・29	4月制作	8	紙芝居	11・25	温泉week
	7	ガーデンティー	10・14	DVD鑑賞	16・20	手作りおやつ	30・31	ティータイムweek

デイサービスセンターこんぜの郷

こんぜデイサービスセンター

(令和4年度 総括)

1. 総括

(1) デイサービスセンターこんぜの郷

- ・今年度も新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、感染に脅かされた。感染防止対策を整えていたが、7月に感染が拡大し1週間の営業休止を行い大きな打撃となった。
- ・こんぜの郷は、栗東市の認知症要介護者の「よりどころ」となり、要介護者が住み慣れた地域で安定した生活が継続できるよう、また利用者の意志や人権を尊重し、利用者一人ひとりに合わせた環境で自己実現・自己表現ができるデイサービスとなるよう努めている。機能訓練指導員の配置を活かし、身体的な機能訓練だけでなく、認知症の周辺症状に合わせ、その方に合ったリハビリが実施できるように取り組んだ。また、以前より取り組んでいる利用者の様子の写真とメッセージを加えた手紙を月に1回家族や担当ケアマネジャーに配布することを継続しており、家族の安心、満足、ケアマネジャーとの信頼関係構築の助けとなった。
- ・今年度の一日平均利用者数は1.6名で、年間の利用者延べ人数は283名という結果で登録者の特養入所やショートステイ利用などにより前年度より減少となった。年度末の登録利用者数は5名となっている。
- ・平均要介護度は1.7であった。
- ・今年度は、運営推進会議を3回開催した。運営推進委員のメンバーからも率直な意見が聞け、地域の方々に開かれた運営を行っていただける会議となった。また、認知症ケアの必要性や認知症デイの特質を理解していただけるよう資料などを配布した。
- ・今年度も栗東市と協同し、認知症カフェを実施(8回開催)した。内容としては参加者の方と共にビデオ講習等の認知症に関する勉強会を行った。平均参加者数は8.3名/回で来所されるメンバーは、昨年同様のメンバーがほとんどであったが、知人を誘ってきてくださる事があった。認知症カフェ参加者から家族が八起会の事業所を利用するようになって生き生きと生活していると聞くことができた。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
4年度	3,887	18,452	4,232	2,589	▲21,386
3年度	8,710	22,375	4,121	2,658	▲20,444
2年度	12,783	19,871	4,349	2,447	▲18,112

(2) こんぜデイサービスセンター

- ・今年度がこんぜの郷同様、新型コロナウイルス感染防止対策を整えていたが、感染拡大の打撃を受けた。運営面については、当事業所が栗東市の在宅介護の拠点となるよう地域に根ざした活動に努めた。外出行事は昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により一切行えなかった。その反面、室内レクリエーションや室内行事に力を入れ、生活意欲の向上や利用者一人ひとり、存在価値が見出せるようなサービス提供に努めた。事業所の特色であるリハビリ設備(足こぎバイク・平行棒・ショルダーマシーン・リハビリスロープ・バンドグリップ等)を活かし、身体機能の維持・向上が図れるよう努めた。また、入浴に関しても、利用者一人ひとりに合わせた入浴ができるよう取り組めた。
- ・今年度の一日平均利用者数は13.4名、年間の利用者延べ人数は4,191名となり、前年度と比較し一日平均では▲1.6名、年間で▲780名と大幅な減少となった。要因としては、新規利用者の獲得ができなかったことに加え、秋頃より毎日利用されている方の長期入院や死亡があり利用者数が減少したことである。
- ・平均要介護度は2.0であった。
- ・年度末の登録利用者数は37名であり、前年度41名より4名の減少となっている。
- ・今年度も新型コロナウイルスの影響により地域との関わりが実現できなかったが、引き続き、地域で八起会の知名度を高め、信頼され必要とされる事業所となり、利用者、利用者家族、地域の方々、各関係事業所等の要望等に柔軟かつ迅速に対応できるよう努めていきたい。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
4年度	38,056	21,268	8,983	4,996	2,809
3年度	44,298	22,410	10,317	4,975	6,596
2年度	51,618	21,968	10,928	4,920	13,812

2. 令和3年度 年間延べ利用者数(DS こんぜの郷・こんぜ DS 上段:介護 下段:予防)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
DS こんぜの郷	46	42	32	20	25	13	12	16	17	18	20	22	283
こんぜ DS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
DS こんぜの郷	388	393	407	279	369	400	400	377	291	275	280	332	4191
DS	12	4	9	6	0	5	2	2	0	0	0	8	48

3.職種別職員数（令和5年3月31日現在）

形態	職種	所長	事務員	相談員	ワーカー	看護師	指導員 機能訓練	調理員	運転手
DS	こんぜの郷	(1)		1	3(2)		(1)	1	1
	こんぜDS	(1)		1	4	1(1)	(1)		1
	計	(2)		2	7(2)	1(1)	(2)	1	2

():兼務

4.デイサービス登録者数（令和5年3月31日現在）

DS	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
こんぜの郷	0人	0人	3人	2人	0人	0人	0人	5人 男性 3人 女性 2人
	50代	60代	70代	80代	90代	100代		
	0人	0人	1人	3人	1人	0人		
こんぜDS	事業対象者	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護		合計
	1人	19人	10人	3人	2人	2人		37人 男性 7人 女性 27人
	50代	60代	70代	80代	90代	100代		
	0人	1人	3人	24人	9人	0人		

5.年間行事等実施内容

別紙のとおり

八起会栗東居宅介護支援事業所

(令和4年度 総括)

1. 総括

令和4年度は新規の受け入れ人数が28名、令和3年度の39名と比較し11名減少となった。施設入所等による契約解除者が22名で登録者は約170名となり担当件数は減少しており、年間延べ利用者人数は1,294名(月遅れ算定)で前年度比152名の減少となった。経営面では、サービス活動収益 22,981千円、人件費 16,614千円、事業・事務費等 2,925千円、減価償却 808千円でサービス活動増減差額は2,642千円となり、期初目標が達成できなかった。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
4年度	22,981	16,614	2,925	808	2642
3年度	25,993	17,409	3,350	567	4667
2年度	28,076	19,724	2,836	540	4976

<活動報告>

- ・4年9月中旬から3名体制から4名体制となり、新規の件数は増えたが、全体としての件数は減少し、当法人のサービスにはつながらないケースが多く、特にこんぜデイサービスセンターやデイサービスセンターこんぜの郷への紹介者数が減少した。
- ・令和4年度現在、栗東市と湖南市の介護支援専門員が不足している状況の中、医療リスクの高い透析や看取りの利用者の最後の砦として湖南市や栗東市からの依頼を受け入れている。また、他居宅事業所が断っている独居や高齢者世帯、経済的困窮者、虐待ケース等の困難ケースの相談も多いが積極的に受け入れを行った。
- ・週1回の居宅連携会議の開催や県・市・ブロックの研修、医療従事者・薬剤師会・看護師との協賛の研修会、栗東市で開催される自主勉強会・管理者会議・研修会に参加し連携の強化やスキルアップを図った。また、栗東市内の居宅介護支援事業所との合同会議においては、前年度は新型コロナウイルスの影響により各事業所1名の参加であったが今年度は全員で参加でき、石部ケアハウスの紹介も行うことができた。
- ・24時間連絡体制や苦情に対する迅速な対応ができた。
- ・地域に根差した居宅介護支援事業所として、地域貢献と合わせて、2025年問題を前に金勝や井上、御園地域の団塊の世代についてリサーチし、民生委員との連携を行って金勝公民館やJAで地域住民と触れ合う機会を作り、地域の方が困っているケースには迅速に動けるようケアマネジャー各々が努めた。

2.年間延べ利用者数(上段:要介護 下段:要支援)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
114	112	114	114	110	109	102	107	107	102	102	101	1,294
25	25	23	21	22	22	21	24	24	26	25	28	286

要介護利用者: 1,294人月平均 107.8人 (令和3年度:1,446人 月平均 120.5人)

要支援利用者: 286人 月平均 23.8人 (令和3年度: 307人 月平均 25.5人)

3. 職種別職員数 令和4年3月31日現在)

	介護支援専門員
栗東居宅	4
合計	4

グループホームみなくち
デイサービスセンターあさひがおか
(令和4年度 総括)

1. 総括

(1) グループホームみなくち

令和4年度は、全国的に新型コロナウイルス(オミクロン株)感染者が最も多く、当施設においても8月に施設内クラスターが発生し、入所者18名中13名の利用者が感染し、職員も12名感染する異常事態となった。介護職員以外の専門職がないグループホームでは、感染者が発生した時点ですぐに医療と連携を図り、状態によっては病院に救急搬送した。入院となった利用者が5名で、持病があり病状増悪にて死亡された方が1名、長期入院となった方が1名あった。その他3名の利用者は隔離期間を経て元気に退院された。施設内では8名の感染者を診ることとなったが、介護職員の懸命な努力と協力体制で乗り切ることができた。また、利用者家族にもこまめに連絡を取りながら状況の説明をすることにより、安心していただくことができた。

- ・ 年間の平均利用率は94.9%で、前年度の実績(95.7%)を少し下回る結果となった。その要因として施設内クラスターの影響が大きい。年間を通して入院者も多かったが、退院調整時は最短日を設定し受け入れることができた。
- ・ 令和4年度の退所者は4名で、退所後はすぐに次期入所者に声をかけ契約に進めることができたが、1ヶ月半ほどの空床が発生。退所から新規入所に至るまで、2週間ほどかかる結果となった。
- ・ 入所者家族には、リモートでの面会を継続していただき協力していただけた。担当者から入所者家族へ電話し、日頃の様子をお伝えしているものの、顔が見られない状況が続いているため、次年度は感染対策をしながら、直接的な面会の実現化を図る。
- ・ 地域においても、新型コロナウイルスの影響から行事や活動をされておらず、防災訓練等にも参加する機会がなかった。施設近辺のご近所の方とは、日常で会話をしたりする程度であった。
- ・ 甲賀市あんぜん・あんしんなまちづくり市民会議総会より、「八起会安心安全パトロール隊」の防犯活動が認められ、防犯功労者として表彰をいただいた。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
4年度	97,105	75,788	21,462	8,479	-8,625
3年度	93,628	64,333	19,137	9,440	718
2年度	91,995	62,482	18,851	9,112	1,550

(2) デイサービスセンターあさひがおか

認知症であっても可能な限り住み慣れた地域や自宅でいつまでも生活することができるよう、利用者の社会的孤立感の解消および心身機能の維持並びに利用者家族の身体的及び精神的負担の軽減を図れるよう努めた。認知症対応型通所介護の特徴である「少人数制」を最大限に活かし、一般のデイサービスとは違った個別の対応を重視し、本人のペースに合わせ柔軟に対応することができた。

下半期は、ケアマネジャーとの風通しの良い関係性を築くため、相談員を中心に居宅介護支援事業所への訪問回数を増やし関係づくりに努めた。また、重度の認知症の方や要介護度の高い方も積極的に受け入れたことにより、新規利用者も増えた。未だ登録人数の限界には達していないため、今後も新規利用者を増やしていくことが課題である。

- ・ 年間の平均利用率は37.45%と、前年度に比べて12%ほど低下している。目標の55%には程遠い結果となった。新型コロナウイルスの影響もあったが、登録者数が少ないことが原因である。
- ・ 信楽町の新規利用者依頼が多く送迎の負担はあるものの、現状から遠方の利用の受け入れをしなければならぬ状態である。
- ・ 利用者家族には、毎回利用者の写真と日記をノートにし、利用者の様子を利用者家族が把握しやすいよう工夫することによって利用者家族にも喜んでいただき、また担当ケアマネジャーにもそのサービス内容を他の利用者へ宣伝してもらうことができた。
- ・ 頭脳、指先、身体の3点を活用する1日の流れを構築し、利用者家族に対して認知症の進行予防に努める活動を進めることができた。
- ・ 認知症が重度な利用者であっても、モチベーションの高いチームワークで受け入れ体制ができており、他のデイサービスで半日しか対応できない利用者に対しても、職員の努力で1日利用していただくことができている。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
4年度	15,688	9,793	4,073	1,884	-61
3年度	20,885	10,178	4,020	1,837	4,850
2年度	17,314	9,206	3,544	1,846	2,718

2. 年間延べ利用者数、月別利用率

グループホームみなくち

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用率(%)	91.3	87.46	100	100	90.5	88.33	90.86	99.26	97.67	96.95	97.82	98.03
延べ入所 人数(名)	538	529	540	558	558	523	558	536	545	558	504	558
入院・外泊 人数(名)	47	44	2	0	62	48	54	1	0	18	13	13

デイサービスセンターあさひがおか

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録人数 (名)	11	11	11	12	11	9	10	10	11	10	15	16
延べ人数 (名)	89	91	90	95	91	82	94	96	99	79	117	130
利用率(%)	39.68	34.47	34.09	38.1	32.97	30.95	37.3	36.51	36.23	32.92	48.75	47.46

*登録人数は各月末時点

3. 職種別職員数（令和5年3月31日現在）

	管理者	事務員	担当者 計画作成	生活相談員	指導員 機能訓練	介護職員	介護助手	介護補助
グループホーム みなくち	1(1)	1(1)	1(1)	0	0	18(1)	0	1
DS あさひがおか			0	1	1(1)	2	1	1
計	1(1)	1(1)	1(1)	1	1(1)	20(2)	1	2

*管理者、事務員はグループホームみなくち、デイサービスセンターあさひがおか兼務（ ）は兼務

*計画作成担当者は介護職員との兼務

4. 年間行事等実施内容

別紙のとおり

